

依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事（令和2年春工事）設計図

伊 賀 市

＜図面リスト＞											
NUMBER	DRAWING	SCALE	NUMBER	DRAWING	SCALE	NUMBER	DRAWING	SCALE	NUMBER	DRAWING	SCALE
＜建築主体＞			A-10	給食室設備解体撤去図	1/50	＜電気＞			＜機械＞		
＜共通＞			A-11	仮設計計画図	1/150	＜共通＞			＜共通＞		
A-01	改修特記仕様書（1）	NS	＜改修＞	【神戸小学校】	1/500	E-01	電気設備工事 特記仕様書	NS	M-01	機械設備工事 特記仕様書	NS
A-02	改修特記仕様書（2）	NS	A-12	配置図	1/200	＜改修＞	【依那古小学校】		＜改修＞	【依那古小学校】	
A-03	改修特記仕様書（3）	NS	A-13	改修前・改修後平面図	1/50	E-02	電気設備図	1/150	M-02	空調設備図	1/100
A-04	改修特記仕様書（4）	NS	A-14	給食室/配膳室 改修計画図	1/100 1/50	＜改修＞	【神戸小学校】		＜改修＞	【神戸小学校】	
A-05	改修特記仕様書（5）	NS	A-15	建具改修計画図	1/50	E-03	電灯・自動火災報知設備図	1/100	M-03	空調設備図	1/100
A-06	解体特記仕様書	NS	A-16	給食室設備解体撤去図	1/150	E-04	動力設備図	1/150			
＜改修＞	【依那古小学校】		A-17	仮設計計画図							
A-07	配置図	1/500									
A-08	改修前・改修後平面図	1/200									
A-09	給食室/配膳室 改修計画図	1/50									

SCALEはA2サイズ打ち出し時の縮尺
(A3サイズでの打ち出し時は71%縮小)

改修工事特記仕様書			7 交通安全管理	交通誘導員 ※配置する 1名以上(大型車両等の出入時) ・配置しない (1.3.8)	⑭ 完成図等	○作成する ・作成しない (1.7.1~3)(表1.7.1)
<p>1. 共通仕様 (1)図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(平成28年版)」(以下「標仕」という。)による。</p> <p>2. 特記仕様 (1)項目は、○印の付いたものを適用する。 (2)特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。 (3)特記事項に記載の()内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4)特記事項に記載の(別)は、(5.3.7)による別図「各部配筋」の当該項目を示す。</p> <p>1. 保険及び保証 ・建築工事保険 (保険証の写しを提出) ・請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出) (・管理財物担保特約に加入のこと) ・法定外労災保証制度 (加入証明書の写しを提出)</p> <p>2. 建設共済等 ・建設業退職金共済制度 当初請負金額が500万円以上の場合は、掛金収納書を提出すること。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を提出すること。共済証紙購入額 請負金額の1.7/1000以上 なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする</p> <p>※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項 資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、出来る限り市内業者を優先させること。 ・給食室内改修工事着手は給食が終了する令和2年3月14日以降とし、現場完了は</p>			<p>⑧ 建築材料等</p> <p>※本工事に使用する材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 ・品質及び性能を試験により証明する材料は以下の物とする。 (1.4.5)</p> <p>⑨ 化学物質を発生する建築材料等</p> <p>本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の1)から5)を満たすものとする。</p> <p>1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、パーティクルボード、MDF、その他木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗料は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエンキシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。</p> <p>5) 1)及び4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発生が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。規制対象外</p> <p>①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a.非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b.接着剤等不使用 c.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d.ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f.非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用</p> <p>第三種 ①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品</p>	<p>⑭ 完成図等</p> <p>○作成する ・作成しない (1.7.1~3)(表1.7.1)</p> <p>種類 ※標仕 表1.7.1による ・各階平面図 ・配置図及び案内図 ・断面図 ・各立面図 ・施工図 ・仕上表 ・ ・施工計画書 ・</p> <p>※CADデータの提出 ※提出する ・提出しない ・安全に関する資料 提出部数 ※2部 ・</p> <p>⑮ 記録</p> <p>工事記録については下記による。(A4版) ※以下一式(工事写真の撮り方 建築編 に準拠する)</p> <p>※工事着工前 1部 ※工程写真 各工程毎 1部 ※竣工写真 ・手札版 ()部 ・カラーキャビネ版 ()部 ・専門家撮影、アルバム編集の上提出 ()部 ※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うように努めること。 ・電子データとし、CD-Rにて提出 ()部 ・監督職員の指示による ※工事日報・納品伝票等の写しは、監督職員が提出を求めた場合は提出こと。</p> <p>⑯ 現況復旧</p> <p>工事施工に際し、在来部分を汚損した場合又は損傷した場合は、構造・仕上げとも在来にならい補修する。</p> <p>⑰ 設備工事との取合い</p> <p>設備機器の位置、取り合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 施工範囲 ・図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔・開口部の型枠及びそれらの補強 ・図示した壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ・駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ ・自動閉鎖装置取付け箇所切込み及び補強 ・</p> <p>⑱ 設計FL</p> <p>※図示のベンチマーク(B.M) mm(現状地盤はB.M mm) ※工事着手前に監督職員の確認を必ず行うこと。</p> <p>⑲ 社内検査報告書</p> <p>工事完成(部分完成を含む)時には、社内検査を実施し、その報告書を監督職員に提出する。</p> <p>20 完成引渡し後の点検</p> <p>・瑕疵期間は、別に定めた特約(責任施工による保証期間など)を除き、伊賀市工事請負契約書に準拠する。 ・工事完成引渡し後、必要に応じて一年又は二年を越えない範囲の適当な時期に、双方立ち会いで工事目的物の瑕疵点検を実施する。</p> <p>㉑ 随時検査</p> <p>発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること。</p> <p>㉒ 施工体制台帳の提出</p> <p>公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。</p>		
章	項目	特記事項	⑩ 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。	⑲ 社内検査報告書	工事完成(部分完成を含む)時には、社内検査を実施し、その報告書を監督職員に提出する。
1章	①適用基準等	※建築工事標準詳細図 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成31年版) ※工事写真の撮り方(平成28年版)建築編 (国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)	11 技能士	※適用する ・適用しない (1.5.2) ・鉄筋施工 ・型枠施工 ・鉄工 ・石材施工 ・ALCパネル施工 ※防水施工 ・タイル張り ・建築大工 ・建築板金 ・左官 ・塗装 ・建具製作 ・サッシ施工 ・内装仕上げ施工 ・造園	20 完成引渡し後の点検	・瑕疵期間は、別に定めた特約(責任施工による保証期間など)を除き、伊賀市工事請負契約書に準拠する。 ・工事完成引渡し後、必要に応じて一年又は二年を越えない範囲の適当な時期に、双方立ち会いで工事目的物の瑕疵点検を実施する。
一般共通事項	②工事実績情報の登録	※請負金額が500万円以上は登録の手続きを行うこと。(1.1.4)	⑫ 施工の立ち会い等	下記事項は監督職員の立会検査を受けなければならない。(1.5.7) ・杭打作業中 ・鉄骨製品検査 ・鉄骨溶接、高力ボルト締め完了時 ・基礎及び各階コンクリート打設時 ・基礎及び各階配筋完了時 ・防水層の施工 ・組積の時 ・仕上検査(監督職員の指示による)	㉑ 随時検査	発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること。
	③品質計画	※建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。(1.2.2) 風速(Vo)=34 m毎秒 地表面粗度 ※Ⅲ(Zb=5 Zg=450 α=0.20) ・Ⅱ(Zb=5 Zg=350 α=0.15) 積雪区分 ・30 cm ④40 cm ・	13 化学物質の濃度測定	施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン (1.5.9) パラジクロロベンゼン、スチレンの濃度を測定し報告すること。 測定は、パンプ型採集機器により行う。 着工前測定 ・行う(改修部分のみ) ・行わない 測定対象室 ・図示 ・内部改修を行う室 測定箇所数 ・図示 ・箇所 採取方法 ・文部科学省の定めるところによる。 報告書の様式 濃度測定記録表の記載事項は、次のとおり 1.工事名 2.測定年月日 3.天候 4.測定前の換気及び閉鎖時間 5.測定時間 6.室名と測定時間 7.測定器具 8.化学物質採取方法 9.分析装置	㉒ 施工体制台帳の提出	公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。
	④電気保安技術者	・適用する ○適用しない (1.3.3) 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする			⑳ 設計FL	※図示のベンチマーク(B.M) mm(現状地盤はB.M mm) ※工事着手前に監督職員の確認を必ず行うこと。
	⑤施工条件	・工事車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・敷地外 (1.3.5) ・施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行った上で、施設の運営に支障をきたさないように協力すること。 ・工事期間中は、施設利用者の安全につとめること。 ・資機材の搬出入は第三者の安全に留意して、災害及び事故の防止に努めること。 ・大型車両通行時には、誘導員等を配置し、安全確保に努めること ・振動、騒音、ほこりでの作業やその他について、事前に施設管理者及び近隣と調整を行うこと。 ・給食室内改修工事着手は給食が終了する令和2年3月14日以降とし、現場完了は3月27日までとすること。(事前調査等は施設管理者と調整を行うこと。)			㉑ 随時検査	発注者が随時検査を求めた場合、監督職員の指示に従い受検すること。
	⑥発生材の処理等	・引渡しを要するもの() (1.3.11) ・特定建設資材の搬出 再資源化等を行う(再資源化が困難な場合には縮減) ・特定建設資材以外の搬出 構外搬出適切処理 ・特別管理産業廃棄物(・無 ・有) 処理方法() ※ 廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びE票の写しを提出するものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。			㉒ 施工体制台帳の提出	公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。
特記事項	変更事項				①災害及び公害の防止	※「低騒音型・低振動型建設機械指定要領」に基づき指定された建設機械を使用する。(3.1.3)
					②根切り	工事に先立ち必要と思われる埋設物等の調査を行う。(3.2.1)
					③埋め戻し及び盛土	種別 (3.2.3)(表3.2.1.) ・A種 ○B種 ・C種 ・D種 建設発生土受け入れ量 m ³ 発生場所()
					④建設発生土の処理	※構外搬出適切処理 (3.2.5) ・構内指示の場所に敷き均し ・構内指示の場所にたい積() ・構外指示の場所に処分 搬出調書等を提出する。 受入れ施設名・場所 () 仮置場所 () ・建設発生土(50m ³ 以上)を搬出する場合は、書面にて処分地の報告(位置図等)を行うこと。 また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。
日付	19. 11	名称	依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事(令和2年春工事)	図面番号	A-01	
検印		図名	共通 改修特記仕様書(1)	縮尺		検印

2章 仮設工事

①足場その他
内部足場 種別 〇きやつ、足場板等 ・移動式足場 [2.2.1]
外部足場 種別 ※くさび緊結式(手すり先行工法) ・ [2.2.1]
防護シートによる養生 ・行わない 〇行う
材料、撤去材等の運搬 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種 [2.2.1][表2.2.1]
既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ・ [2.3.1]
固定家具等の移動 ※行わない ・行う(図示)

②養生その他

3 仮設間仕切り
(a)設置箇所 ※図示 ・ [2.3.2][表2.3.1]
種別 下地 仕上材(厚さmm) 充てん材 塗装
・A種 ※軽量鉄骨 ・合板(※9.0 ・) ※無し
・B種 ・木下地 ※せっこうボード(※9.5 ・) 厚さ mm ・片面
・C種 単管下地 防炎シート
仮設扉 ※木製扉 ・合板張り程度 ※無し
・鋼製扉 ・片面フラッシュ程度 ・有り

4 監督職員事務所
・設ける 規模等は以下による ・既存施設の一部を使用する ※設けない [2.4.1]
(・規模 m程度 ・仕上げ:床、壁、天井 程度)

⑤工事用水
構内既存の施設 ※利用できる (〇有償 ・無償) ・利用できない

⑥工事用電力
構内既存の施設 ※利用できる (〇有償 ・無償) ・利用できない

3章 防水改修工事

1 既存下地の補修及び処置 ※図示による [3.2.6]
既存露出防水層表面の仕上塗装の除去 ・する ・しない

2 アスファルト防水 [3.3.2~3][表3.1.1][表3.3.3~3.3.10]
防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類
アスファルトの種類 ※3種 ・ 押え金物 ※アルミニウム製(L-30x15x2.0程度)
脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 () 箇所
改修用ドレン ※設ける (箇所) ※鋼製 ・鉛製 ・設けない [3.2.5]
屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材
材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き)
・A種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板3種b(スキンあり)
厚さ(mm) ※35
屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材
材質 ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
※A種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号
厚さ(mm) ※35
乾式保護材 製造所の仕様による
防水保護のれんがの種類 ※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形コンクリートブロック
仕上塗装(P2A,M3D,POD,POD1,M3D1,M4D1,工法) ※種類および使用量は製造所の仕様による
施工標識 ※設ける ・設けない

3 改質アスファルトシート防水 [表3.1.1][3.4.2~3][表3.4.1~3]
防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類(厚さmm) 仕上げ塗料等
仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による
脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 () 箇所
露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材 ・製造所の指定する製品
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
施工標識 ※設ける ・設けない

4 合成高分子系ルーフィングシート防水 [表3.1.1][3.5.2~3][表3.5.1~2]
防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類(厚さmm) 仕上げ塗料等
仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による
絶縁用シートの材質 ※発泡ポリエチレンシート ・ [3.5.2]
脱気装置 ・製造所の指定する製品 ・ステンレス製 設置数量 () 箇所
機械固定工法に用いる断熱材 ※次のいずれかによる
・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2種
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b
・A種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号
・A種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板
接着工法に用いる断熱材 ※次のいずれかによる
上記断熱材のほか ・ポリエチレンフォーム保温材 ・A種ポリエチレンフォーム保温材
改修用ドレン ※設ける (箇所) ・設けない
※製造所の指定する製品 ・鋼製 ・鉛製
施工標識 ※設ける ・設けない

5 塗膜防水 [表3.1.1][3.6.2~3][表3.6.1]
防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類 仕上げ塗料等
仕上げ塗料の使用量 ※製造所の仕様による
既存塗膜防水層表面の仕上げ塗料の除去(L4X工法) ・除去する [3.2.6]
脱気装置(S4S工法及びS3S工法) ・設けない ・設ける
施工標識 ※設ける ・設けない

6 保証期間
防水の保証期間は原則、10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。

7 シーリング
・シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 [3.1.4][表3.1.2]
・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法
シーリング材の種類、施工箇所 [3.7.2][表3.7.1]
※下表以外は、改修標仕表 3.7.1を標準とする
施工箇所 シーリング材の種類(記号)
建具廻り MS-2
水廻り SR-1
シーリングの試験 ※行わない ・行う(※簡易接着性試験 ・引張接着性試験)

8 とい
材質 ・配管用鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・硬質ポリ塩化カービド管(VP) [3.8.2(a)]
とい受け金物 ※SUS製 ・亜鉛メッキ製
ルーフトレン ※改修標仕表 3.8.2を標準とする ・図示による [3.8.2(b)][表3.8.2]

9 アルミニウム製笠木
表面処理 ・A-1種 ※B-1種

4章 外壁改修工事

1 施工数量調査
調査範囲 ・既存モルタル面 ・躯体コンクリート面 ・図示の範囲 [1.5.2]
調査内容 ひび割れ(0.2mm以上)の長さを表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
モルタルの浮き部分を表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を調査する。
調査報告書の部数 ※1部

2 改修工法の種類 [4.1.4~5]
外壁の種類 種類 改修工法
・コンクリート打放し仕上げ ・ひび割れ部 ・欠損部 ※樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法
・モルタル塗り仕上げ ・ひび割れ部 ・欠損部 ・浮き部 ※樹脂注入工法・Uカットシール材充填工法・シール工法
・浮き部 ・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・目地 ・目地ひび割れ部改修工法 ・伸縮目地改修工法
・塗り仕上げ ・薄付け仕上塗材塗り ・可とう形改修用仕上塗材塗り
・厚付け仕上塗材塗り ・各種塗料塗り
・複層仕上塗材塗り ・マチック塗材塗り

3 ひび割れ部改修工法 [4.1.4][4.3.4]
樹脂注入工法 (・モルタル面 ・躯体コンクリート面)
注入工法の種類 ひび割れ幅(mm) 注入間隔(mm) 注入量(cc/m) 備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上~1.0未満 ※200~300 ※
・手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上~0.3未満 ※50~100 ※40
・機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上~0.5未満 ※100~200 ※70
0.5以上~1.0未満 ※150~250 ※130
注入材料 [4.2.2]
※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A 6024低粘度形又は中粘度形)
検査(コア抜き) ※行わない
・行う(抜き取り部の補修方法:)
・Uカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.5]
充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系シーリング材
・可とう性エポキシ樹脂
ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない
・シール工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.6]
シール材料 ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂

4 欠損部改修工法 [4.1.4][4.2.2][4.3.7]
※充填工法
充填材料 ・ポリマーセメントモルタル(・モルタル面 ・コンクリート面 ・C面)
・エポキシ樹脂モルタル()
・モルタル塗替え工法(改修標仕4.2.2(g)による)

5 浮き部改修工法 [4.1.4][4.4.10~4.4.15][表4.4.3][表4.4.4]
改修工法の種類 アンカーピンの本数(本/m²) 注入口の箇所数(箇所/m²) 充てん量
(モルタルを撤去しない場合) 一般部 指定部 一般部 指定部 注入量
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※16 ※25 ※25ml
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ※25ml
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※13 ※20 ※12 ※20 ・25ml ※50ml
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※25ml
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※25ml
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 ※9 ※16 ※9 ※16 ※50ml
※狭幅部におけるアンカーピン本数は、幅中央に5本/mとする
アンカーピン [4.2.2]
材質 ※ステンレス SUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの
注入口付アンカーピン [4.2.2]
材質 ※ステンレス SUS304、呼び径外径6mm

6 既存塗膜等の除去及び下地処理 [4.6.3][表4.6.1~4.6.5]
既存塗膜劣化部の除去及び下地処理の工法 [4.6.3][表4.6.1~4.6.5]
工法 処理範囲 下地面の補修
・サンダー工法 ※既存仕上面全体 ・ひび割れ部改修工法
・高圧水洗工法 ※既存仕上面全体 ・浮き部改修工法
・塗膜はく離工法 ※既存仕上面全体 ・欠損部改修工法
・水洗い工法 ※上記処理範囲以外の既存仕上面全体
下地調整材 [4.2.2][4.6.3]
※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル ・防水形仕上げ塗材材材を使用

7 仕上げ塗り材仕上げ [4.1.4][4.2.2][表4.2.4~5]
種類、仕上げの形状、工法 [4.1.4][4.2.2][表4.2.4~5]
種類 呼び名 仕上げの形状
・薄付け仕上塗材 ・外装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E
・砂壁状 ・着色骨材砂壁状
・砂壁状 ・ゆず肌状
・ゆず肌状 ・凹凸状
・複層仕上塗材 ・複層塗材CE ・可とう形複層塗材CE
上塗材
・複層塗材E
・複層塗材RE
・水系アクリル
・水系アクリルシリコン
・防水形複層塗材CE
・防水形複層塗材E
・防水形複層塗材RS
外観 ※つやあり ・つやなし
・メタリック
防水形の増塗材 ・行う
・軒天用軽量骨材
・吹付用軽量塗材
・こて塗用軽量塗材
・砂壁用
・平坦状

8 設計数量
外壁部位 種類 工法 数量 備考
・コンクリート打放し面 ・ひび割れ部 ※Uカットシール材充填工法 m
・欠損部 ※エポキシ樹脂モルタル充填工法 箇所
・モルタル塗り仕上げ面 ・ひび割れ部 ※Uカットシール材充填工法 m
・自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 m
・欠損部 ※充填工法 m
・浮き部 ※アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法 m
※上記数量については、現場調査を行い報告書を作成し、提出する。
尚、数量の10%を超える増減が生じた場合は協議の上、契約変更を行う事ができる。

5章 建具 改修 工事	1 改修工法	・かぶせ工法 ・撤去工法（・引き抜き工法 ・はつり工法） [5.1.3]	15 ガラス	種類・厚さ ※ 建具表による [5.13.2]	11 ビニル床タイル	[6.8.2]				
	2 見本の製作等	・建具見本の製作 ・特殊な建具の仮組 [5.1.5]	16 ガラスの留め材	種別（区分は図示による） [5.13.2][表5.13.1] ※シーリング材（SR-1、シリコン系、9030G） ・ガasket	12 帯電防止ビニル床タイル	[6.8.2]				
	3 アルミニウム製建具	外部に面する建具（フロントサッシは除く） [5.2.2][表5.2.1]	17 ガラス用フィルム	品質は、JIS A5759による ※熱線遮断用フィルム 種類（・第2種 ・ ） 張り面（※内張 ・外張） 性能値 ※層間変位試験に適合するもの（B法）	13 誘導用及び注意喚起用床材	[6.8.2]				
	4 網戸	種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所	種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所	①改修範囲	既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3] ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示による範囲 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲 ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示による範囲 天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修範囲 ※既存のまま ・図示による範囲	視覚障害者用床タイル [6.8.2]	[6.8.2]			
		・A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※70 ※図示	・A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※70 ※図示		②既存床の撤去並びに下地補修	床タイルの撤去 ・仕上げ材のみ(接着剤とも) [6.2.2] ○下地モルタルとも(※図示の範囲 ・除去範囲全て) 改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 ・図示 合成樹脂塗り床の除去 ・機械的除去工法 ・目荒工法 間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修 [4.4.9][6.3.2] ※図示 ・モルタル塗り(塗り厚25mmを超える場合の補強 ・行う ・行わない)	種別 寸法(mm) 施工箇所	[6.8.2]		
	5 樹脂製建具	外部に面する建具（フロントサッシは製造所の仕様による） [5.3.2][表5.3.1]	種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所	3 既存壁の撤去並びに下地補修	4 木下地等	種別 寸法(mm) 施工箇所	[6.8.2]			
	6 鋼製建具	種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所	種別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施工箇所	4 木下地等	表面の仕上がり ・A種 ・B種 ・C種 [6.5.1][表6.5.1] 木材の含水率 ※A種 ・B種 [6.5.2][表6.5.2] 木材の品質 ※改修仕様6.5.2による ・市販品 [6.5.2][表6.5.3] 樹種 構造材 ※杉 ・松 ・ひのき 造作材 ※杉 ・松 ・ひのき 代用樹種 ※改修仕様6.5.4による [6.5.2][表6.5.4] ・代用樹種を適用しない箇所() 防蟻処理 ※行わない ・行う(箇所一 際根太、畳下床組) 木材保存(木材の防腐・防蟻処理)剤は、監督職員の承諾するものとする。 ※9.0mm未満の合板上張り留め付けはタッカー留めとする。	14 ビニル幅木	[6.8.2]			
		・A種 S-4 A-4 W-4 ※70 ※図示	・A種 S-4 A-4 W-4 ※70 ※図示		5 集材材等	集材材の材質 ※6.5.2(b)による ・ ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 集材材の等級	高さ(mm) ・60 ※75 ・100	[6.8.2]		
	7 鋼製軽量建具	簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない [5.4.1] 品質規格 ※改修仕様5.5.1による [5.5.2][5.5.4] ・製造所標準仕様による 簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない	・防音ドアセット及び防音サッシの適用 種別 ・T-A種 ・T-B種 [5.3.2][表5.3.2] ・断熱ドアセット及び断熱サッシの適用 種別 ・H-A種 ・H-B種 [5.3.2][表5.3.3]	6 接着剤	※木工事に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 [6.5.2] ※壁紙、ビニル床タイル、ビニル床シート、幅木に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 [6.8.2][6.14.2]	15 カーペット敷き	[6.8.2]			
	8 ステンレス製建具	表面仕上げ ※H.L仕上げ ・鏡面仕上げ [5.6.2][5.6.4] 曲げ加工 ※普通まげ ・角出しまげ 簡易気密型ドア ・使用する ※使用しない	マスターキー ・製作する ○製作しない(既設マスター合わせ) [5.7.4] モノロック ゴール(UH) 美和ロック(U9HK) シリンドー箱錠 ゴール(AS) 美和ロック(U9HK, MA, LH, LA) シリンドー本締り錠 ゴール(HD) 美和ロック(U9BH, DA) ドアクローザー ダイハツディーゼル機器(大島機工、ニッカナ) 日本ドアチェック製造、美和ロック、リョービ フロアヒンジ 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リョービ ヒンジクローザー 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造 リョービ、デンセイオートテック 押板、取手 樹建工業、ユニオン	7 床板張り	フローリング及び緑甲板張り床 [表6.5.10]	種別 バイル形状 色柄等 備考	[6.8.2]			
	⑨ 建具用金物	マスターキー ・製作する ○製作しない(既設マスター合わせ) [5.7.4] モノロック ゴール(UH) 美和ロック(U9HK) シリンドー箱錠 ゴール(AS) 美和ロック(U9HK, MA, LH, LA) シリンドー本締り錠 ゴール(HD) 美和ロック(U9BH, DA) ドアクローザー ダイハツディーゼル機器(大島機工、ニッカナ) 日本ドアチェック製造、美和ロック、リョービ フロアヒンジ 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リョービ ヒンジクローザー 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造 リョービ、デンセイオートテック 押板、取手 樹建工業、ユニオン	マスターキー ・製作する ○製作しない(既設マスター合わせ) [5.7.4] モノロック ゴール(UH) 美和ロック(U9HK) シリンドー箱錠 ゴール(AS) 美和ロック(U9HK, MA, LH, LA) シリンドー本締り錠 ゴール(HD) 美和ロック(U9BH, DA) ドアクローザー ダイハツディーゼル機器(大島機工、ニッカナ) 日本ドアチェック製造、美和ロック、リョービ フロアヒンジ 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造、リョービ ヒンジクローザー 大島機工(ニッカナ、美和ロック)、日本ドアチェック製造 リョービ、デンセイオートテック 押板、取手 樹建工業、ユニオン	8 軽量鉄骨天井下地	野縁等の種類 屋内(※19形 ・25形) 屋外(※25形 ・19形) [6.6.2][表6.6.1] 既存の埋込みインサート ・使用する ・使用しない [6.6.4] あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う ・行わない 耐震補強 ・行う(図示) 屋外軒天井及びピロティ天井補強 ・図示	種別 寸法(mm) 総厚さ(mm) 施工箇所	[6.8.2]			
	10 自動ドア開閉装置	開閉方法 ※スライディングドア ・スイングドア [5.8.2][5.8.3][表5.8.1~5.8.3] センサーの種類 ・マットスイッチ ・光線スイッチ ・熱線スイッチ ・	品質規格 ※改修仕様5.9.3による [5.9.3][表5.9.1] ・製造所標準仕様による	9 軽量鉄骨壁下地	スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示	耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 ・	[6.8.2]			
	11 自閉式上吊り引戸装置	品質規格 ※改修仕様5.9.3による [5.9.3][表5.9.1] ・製造所標準仕様による	品質規格 ※改修仕様5.9.3による [5.9.3][表5.9.1] ・製造所標準仕様による	10 ビニル床シート	工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所) [6.8.2][6.8.3]	・タイルカーペット [6.9.2][6.9.3][表6.9.2]	[6.8.2]			
	12 重量シャッター	種類 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター [5.10.2][表5.10.1] ・屋内用防火シャッター ・屋内用防煙シャッター 開閉機能 ・上部電動式(手動併用) ・上部手動式 [5.10.2] スラット 材質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・溶融亜鉛めっき鋼板 [5.10.3] 形状 ※インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 [5.11.4] シャッターケース(防火・防煙以外のもの) ・設ける ・設けない 危害防止機構 ・障害物感知装置(自動閉鎖型) ・「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」に適合するもの 耐風圧性能() N/m ² (一般重量・外壁用防火のもの)	品質規格 ※改修仕様5.9.3による [5.9.3][表5.9.1] ・製造所標準仕様による	10 ビニル床シート	工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所) [6.8.2][6.8.3]	・カーペット敷き [6.9.2][6.9.3][表6.9.2]	[6.8.2]			
13 軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・上部電動式(手動併用) [5.11.2][表5.11.1] スラット 材質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ [5.11.3] 形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 [5.11.4] 耐風圧性能() N/m ²	品質規格 ※改修仕様5.9.3による [5.9.3][表5.9.1] ・製造所標準仕様による	10 ビニル床シート	工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所) [6.8.2][6.8.3]	・カーペット敷き [6.9.2][6.9.3][表6.9.2]	[6.8.2]				
14 その他のシャッター	・オーバーヘッドドア ・リンググリルシャッター	品質規格 ※改修仕様5.9.3による [5.9.3][表5.9.1] ・製造所標準仕様による	10 ビニル床シート	工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所) [6.8.2][6.8.3]	・カーペット敷き [6.9.2][6.9.3][表6.9.2]	[6.8.2]				

6章 内装改修工事

19 せっこうボード
その他ボード張り

Table with columns: 種類, JISの記号, 厚さ (mm), 規格等. Includes items like 硬質木毛セメント板, 普通木毛セメント板, けい酸カルシウム板, etc.

20 せっこうボードの
目地処理

Table with columns: 目地処理の種類等, 目地処理. Includes items like 縦目処理工法, 突付け工法, 目透し工法.

21 壁紙張り

Table with columns: 施工箇所, 壁紙の種類, 防火性能, 備考. Includes items like 保育室・乳児保育室, 上記以外の各室.

22 磁器器質タイル張り

Table with columns: タイルの種類, 施工箇所, 形状寸法 (mm), 用途による区分, 耐凍害性, 色調, うわぐすり, 役物. Includes items like テラス段鼻, タイルの見本焼き.

23 セルフレベリング

Table with columns: セルフレベリング材の種類, セルフレベリング材の種類. Includes items like セルフレベリング材の種類.

24 断熱材

Table with columns: 種類, 施工箇所, 厚さ (mm), 品質等. Includes items like ポリスチレンフォーム保温板, 現場発泡断熱材.

25 可動間仕切

Table with columns: 構造形式, 各部の総厚さ (mm), 表面材種 厚さ (mm), 表面仕上げ. Includes items like ※パネル式, スタッ式, スタッパネル式.

26 フリーアクセス
フロア

Table with columns: 施工箇所, 仕上り高, 耐震性能, 耐荷重性能, 表面仕上げ材. Includes items like 製造所, パネル表面材.

27 移動間仕切り

Table with columns: パネル表面材, パネル及び圧着装置の操作方法. Includes items like パネル表面材, パネル及び圧着装置の操作方法.

28 トイレブース

Table with columns: パネル表面材, 脚部. Includes items like パネル表面材, 脚部.

29 階段滑り止め

Table with columns: 材種, 寸法. Includes items like 材種, 寸法.

30 黒板及び
ホワイトボード

Table with columns: 黒板, 種類. Includes items like 黒板, 種類.

31 ブラインド

Table with columns: 形式, 種類, スラットの材種・幅 (mm), 施工箇所. Includes items like ※横型, ※縦型.

32 カーテン

Table with columns: 施工箇所, 名称・品質, ひだの種類, 形式. Includes items like 便所(1), 便所(2), 各保育室, etc.

33 点検口

Table with columns: 天井点検口, 床点検口. Includes items like 天井点検口, 床点検口.

34 流し台ユニット

Table with columns: 種類, 寸法, 適用内容, 規格・品質等. Includes items like 流し台, コンロ台.

7章 塗装改修工事

Table with columns: ①材料一般, ②下地調整. Includes items like ①材料一般, ②下地調整.

3 錆止め塗料塗り

Table with columns: 塗料種別, 塗り工法. Includes items like 塗料種別, 塗り工法.

④合成樹脂調合
ペイント塗り (SOP)

Table with columns: 下地の種類, 塗料種類, 塗り工法. Includes items like 下地の種類, 塗料種類, 塗り工法.

5 フタル酸樹脂
エナメル塗り (FE)

Table with columns: 木部, 鉄鋼面, 亜鉛めっき面. Includes items like 木部, 鉄鋼面, 亜鉛めっき面.

6 アクリル樹脂系非水
分散形塗料 (NAD)

Table with columns: 塗替えの場合の下地調整, 塗り工法の種別. Includes items like 塗替えの場合の下地調整, 塗り工法の種別.

7 耐候性塗料塗り (DP)

Table with columns: 塗替えの場合の下地調整, 上塗種別. Includes items like 塗替えの場合の下地調整, 上塗種別.

⑧つや有合成樹脂
エマルジョン
ペイント塗り (EP-G)

Table with columns: 下地の種類, 塗り工法. Includes items like 下地の種類, 塗り工法.

9 合成樹脂エマルシ
ンペイント塗り (EP)

Table with columns: 塗り工法の種別. Includes items like 塗り工法の種別.

10 合成樹脂エマルジョン
塗料塗り (EP-T)

Table with columns: 新規の塗りの種別, 塗替えの場合. Includes items like 新規の塗りの種別, 塗替えの場合.

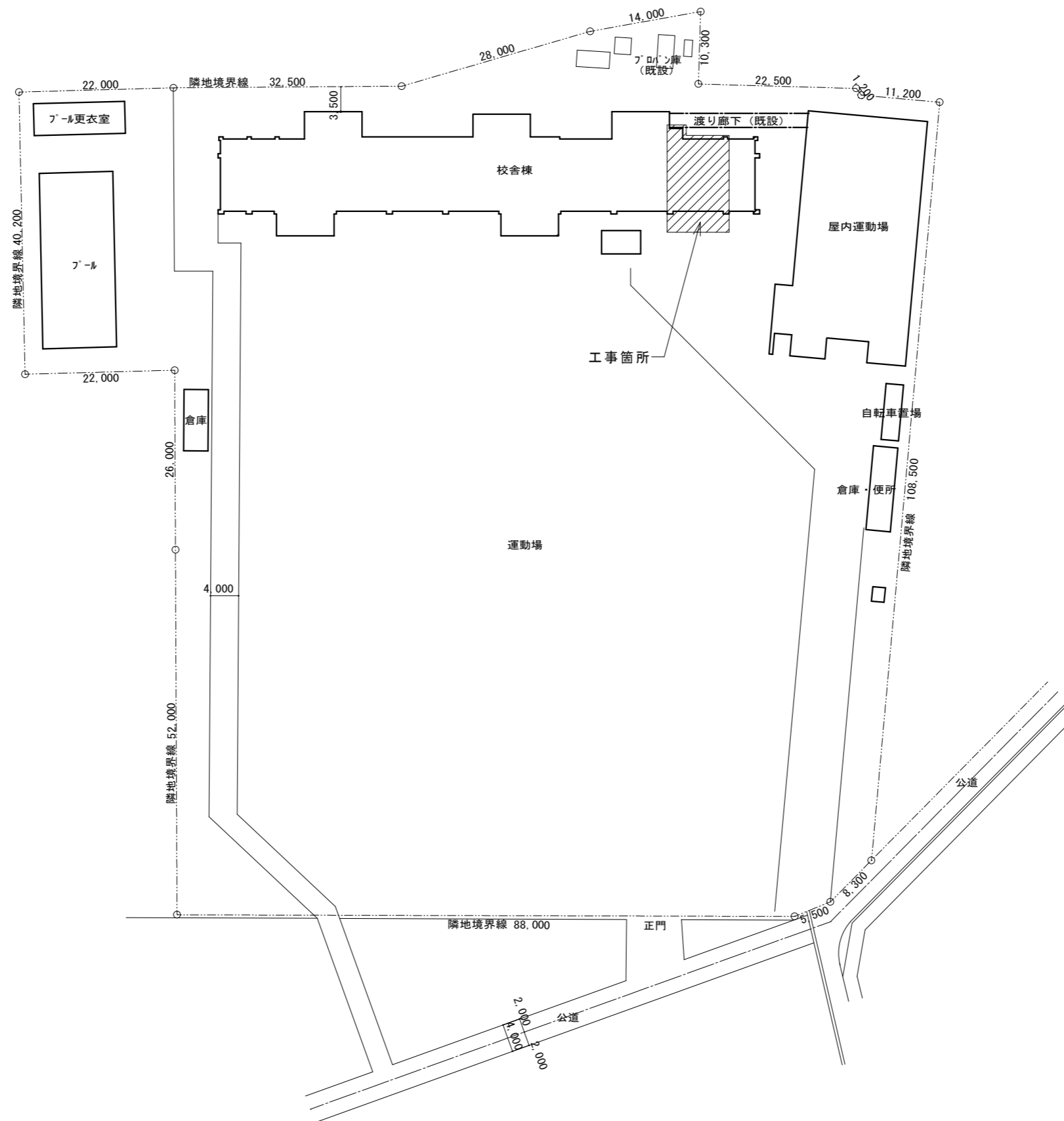
11 ウレタン樹脂
ワニス塗り (UC)

Table with columns: 塗り工法の種別, 塗料の種別. Includes items like 塗り工法の種別, 塗料の種別.

12 木材保護塗料塗り
(WP)

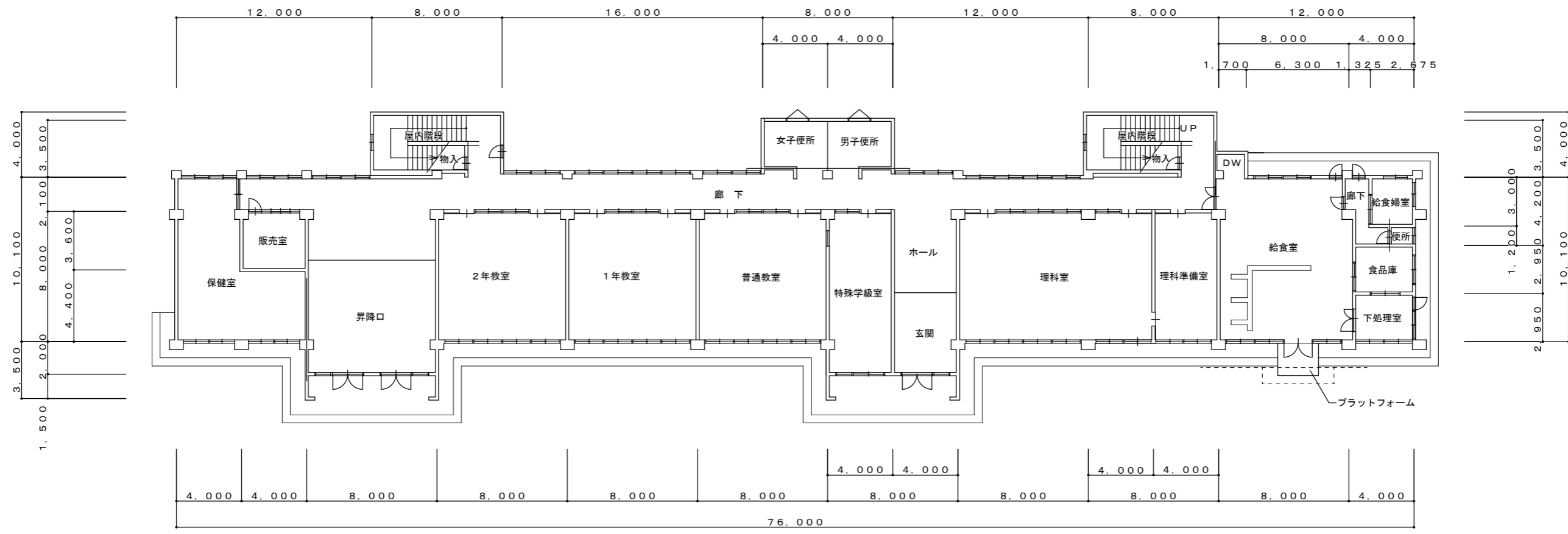
Table with columns: 工法. Includes items like 工法.

9章 環境配慮 改修工事	① 一般事項	労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針 ・アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。		除去工法 吹付主剤、下地調整材(吹付仕上)の除去 ・集じん装置付高圧水洗工法 ・集じん装置付超高圧水洗工法 ・超音波ケレン工法 ・剥離材併用高圧水洗工法 ・剥離材併用超高圧水洗工法 ・剥離材併用手工具ケレン工法 ・剥離材併用超音波ケレン工法 ・集塵装置付ディスクグラインダーケレン工法 上記工法によらない場合は監督職員と協議の上、承諾を得ること。 下地調整材(ローラー仕上)の除去工法についてはレベル3(アスベスト含有成形板)の除去工法と同等とする。	⑥ 路盤の構成及び仕上がり ⑦ アスファルト舗装	・横仕22.3.2は適用しない (22.3.2)(表22.3.2) 構成及び厚さ ①車道部の基層なし 基層 ー 表層 50mm (22.4.2) ・車道部の基層有り 基層 50mm 表層 30mm ・歩道部 基層 ー 表層 30mm 配合その他 (22.4.4) 加熱アスファルト混合物等の種類 (表22.4.6) 基層 ・粗粒度アスファルト混合物(20) 表層 ※密粒度アスファルト混合物(13)又は密粒度アスファルト混合物(13F) ・細粒度アスファルト混合物(13)又は細粒度ギャップアスファルト混合物(13F) 試験練り ・行う ※行わない シールコート ・行う ※行わない (22.4.5) 切り取り試験 ・行う ※行わない (22.4.6) 平たん性 ※通行に支障となる水たまりを生じない程度 アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ①行わない
	2 アスベスト含有建材の処理工事	アスベスト含有吹付け材の封じ込め処理 ・行う ・行わない [9.1.1] アスベスト含有吹付け材の囲い込み処理 ・行う ・行わない アスベスト含有建材除去後の仕上げ ・行う ・行わない 施工箇所及び工法 ※図示		除去工法の試験施工 ※行う ・行わない 作業場の隔離及び養生 ※「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による ・隔離養生不要 ・その他 ()	⑧ コンクリート舗装	構成及び厚さ ※表22.5.1による ・図示による (22.5.2)(表22.5.1) コンクリート ※表22.5.2による ・図示による (22.5.3)(表22.5.2) 注入目地材 ※低弾性タイプ ・高弾性タイプ (表22.5.3) 厚さの試験 ・行う ※行わない (22.5.6) 平たん性 ※通行に支障となる水たまりを生じない程度
	3 アスベストの含有調査	分析による確認 ・行う(下表による) ・行わない 材料名 調査方法 1材料あたりの試料数 ※定性分析(3・) ※定量分析(※3・) ※定性分析(3・) ※定量分析(※3・) ※定性分析(3・) ※定量分析(※3・) ※定性分析(3・) ※定量分析(※3・)		官公署等への届出 労働安全衛生法に基づく届出 ・行う ・行わない 石綿障害予防規則に基づく届出 ・行う ・行わない 大気汚染防止法に基づく届出 ・行う ・行わない 外壁補修作業の内、Uカット工法以外は労働安全衛生法及び石綿障害予防規則に基づく届出は不要とする。 アスベスト粉じん濃度測定 ※行う(試験施工時) ・行わない [9.1.3] 表9.1.1 アスベスト粉じん濃度測定	9 カラー舗装	構成及び厚さ ※表22.6.1による ・ (22.6.2)(表22.6.1) 舗装の種類 ・加熱系(・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物) ・常温系(・ニート工法 ・塗布工法) 車道部の基層 ・有り ※無し
	4 アスベスト含有吹付け材の除去	アスベスト含有吹付け材の有無 ・有 ・無 [9.1.3] 除去吹付け材() 含有場所() 吹付けアスベストの施工数量調査 ※行う アスベスト粉じん濃度測定 ※行う 表9.1.1 アスベスト粉じん濃度測定		試験施工時 測定1 ※施行区画周辺又は、敷地境界 ・図示による	10 透水性アスファルト舗装	厚さ ※歩道部30mm ・ (22.7.2) 平たん性 ※著しい不陸がないもの アスファルト ・歩道部 ※ストレートアスファルト (22.7.3)(表22.7.1) 試験練り ・行う ※行わない (22.7.4) 開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ・行う ・行わない (22.7.6)
	5 アスベスト含有仕上塗材の除去	表9.1.1 アスベスト粉じん濃度測定		(注)1. 試験施工時に濃度測定を行い、結果を監督職員へ提出すること。 なお、アスベストの飛散が確認された場合は、除去工法及び養生方法を再検討し、監督職員と協議すること。 なお、工法の再選定する場合は、協議の上契約変更を行うことができる。	11 ブロック系舗装	目地材 ※砂 ・モルタル (22.8.2) 舗石の基層 ※コンクリート舗装 ・アスファルト舗装 平たん性 ※歩行に支障となる段差がない(3mm以下) 舗石の種類 ・形状 ・寸法 コンクリート平板の種類及び寸法 ・N300 ・ (22.8.3) インターロッキングブロック 材質 形状 普通 t=60 クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 表面加工 種類 寸法
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		測定時期 測定名称 測定場所 測定点(各施工箇所ごと) 備考 処理作業前 測定1 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 測定2 施行区画周辺又は、敷地境界 計2点 大気 処理作業中 測定3 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 測定4 セキュリティーゾーン入口 1点 空気の流れを確認 測定5 負圧・除じん装置の排出吹出し口 1点 (注)2 測定6 施行区画周辺又は、敷地境界 4方向各1点 - 処理作業後(隔離シート撤去前) 測定7 処理作業室内 各2点又は3点 (注)1 測定8 施行区画周辺又は、敷地境界 4方向各1点 大気 (注)1. 各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。 300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。 (注)2. 集じん・排気装置の性能確認	6 アスベスト含有保温材等の除去	アスベスト含有保温材の有無 ・有 ・無 [9.1.4] 除去保温材() 含有場所() 作業場の隔離 ・行う ・行わない ・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた熔融施設において熔融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う	
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		アスベスト含有成形板の有無 ・有 ・無 [9.1.5] 除去成形板() 含有場所() 作業場の隔離 ・行う ・行わない 処分方法 ・埋立処分 ・アスベストの中間処理に適する熔融施設 ・認定を受けた無害化処理施設	12 砂利敷き	材料 ・A種(通路) ・B種(建物周囲その他) (22.9.2)	
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		※本工事に配置管理させる者(有資格者) ※特定化学物質等作業主任者(H18.3.31以前の講習修了者) 又は石綿作業主任者(H18.4.1以降の講習修了者)			
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		1 路床 ・遮断層 厚さ(mm) ・ 材料 ※川砂、海砂、良質な山砂 ・ (22.2.2) ・路床安定処理 厚さ(mm) ・ 添加材料の種類 ・盛土材料 種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 (22.2.3)(表3.2.1) ・フィルター層 厚み ・車道150mm歩道50mm ・ (22.2.2)(22.2.3)(表22.2.1) ・ジオテキスタイル 品質 (22.2.3)			
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		2 路床土の支持力比試験 ・行う(・乱した土 ・乱さない土) ・行わない (22.2.5)			
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		3 路床締め度の試験 ・行わない ・行う (22.2.5)			
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		4 砂の粒度試験 ・行わない ・行う			
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		⑤ 路盤材料 路盤の厚さ 車道部(※150・)mm 歩道部(※100・)mm (22.3.2) 種別及び呼び名 ・クラッシュランC-40又はクラッシュランスラグCS-40 ※再生クラッシュランRC-40 締め度の検査 ※行う(箇所) ①行わない			
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		5 特記事項 作業場の隔離 ※行う ・埋立処分の場合は、特別管理産業廃棄物として、管理型最終処分場の一定の場所で埋立処分する ・中間処理の場合は、都道府県知事等から処置許可を受けた熔融施設において熔融又は環境大臣の認定を受けた無害化処理施設において無害化処理を行う ・粉じん飛散抑制剤については「建設技術審査証明書」の取得に関する資料を監督職員に提出し、承認を得ること。			
	表9.1.2 アスベスト粉じん濃度測定方法		5 アスベスト含有仕上塗材の除去 アスベスト含有仕上塗材の除去(除去工法、養生、粉じん飛散防止措置、呼吸用保護具・保護衣等)については、「建築物の改修、解体時における石綿含有建築用仕上塗材からの石綿粉じん飛散防止処理技術指針」による。 アスベスト含有箇所 ・吹付主剤 ・下地調整材(吹付仕上) ・下地調整材(ローラー仕上) アスベスト含有仕上塗材の有無 ・有 ・無 除去仕上塗材() 含有場所() 吹付主剤、下地調整材(吹付仕上)の除去及び養生はアスベスト含有吹付け材、下地調整材(ローラー仕上)はアスベスト含有成形板として扱う。 撤去の範囲 ・全面撤去 ・塗膜の劣化部及び外壁補修等作業箇所のみ撤去 ・図示による 外壁補修等作業はUカット工法、アンカーピニング工法、樹脂注入工法、モルタル充填工法、足場アンカー設置、コア抜き等軽微な作業を示す。			
特記事項	変更事項			日付 19.11 検印 署名 日付	名称 依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事(令和2年春工事) 図名 共通 改修特記仕様書(5) 図面番号 A-05 検印	

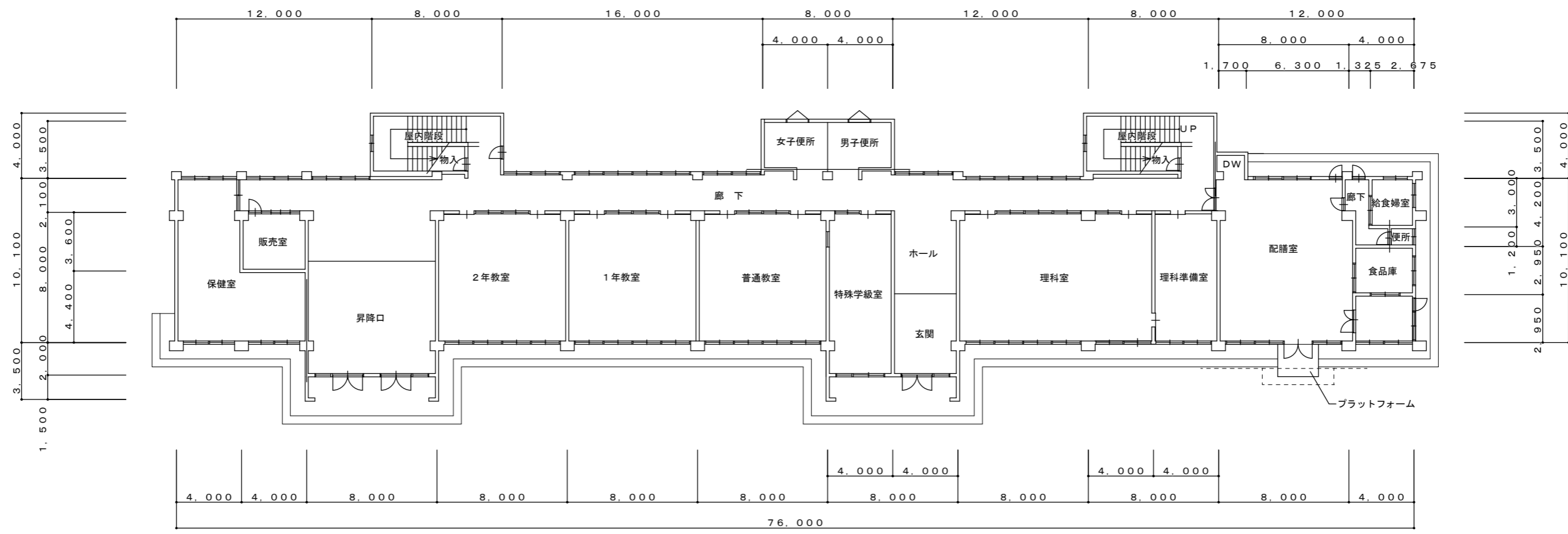


配置図 S = 1 / 500

特記事項	変更事項		日付	19.11	名称	依那古・神戸小学校 新給食センター配送給食室改修工事 (令和2年春工事)	図面番号	A-07
			棟名		図名	配置図 (依那古小学校)	縮尺	A3版 縮小 A2版 1/500
			担当者		図名		縮尺	
	日付							

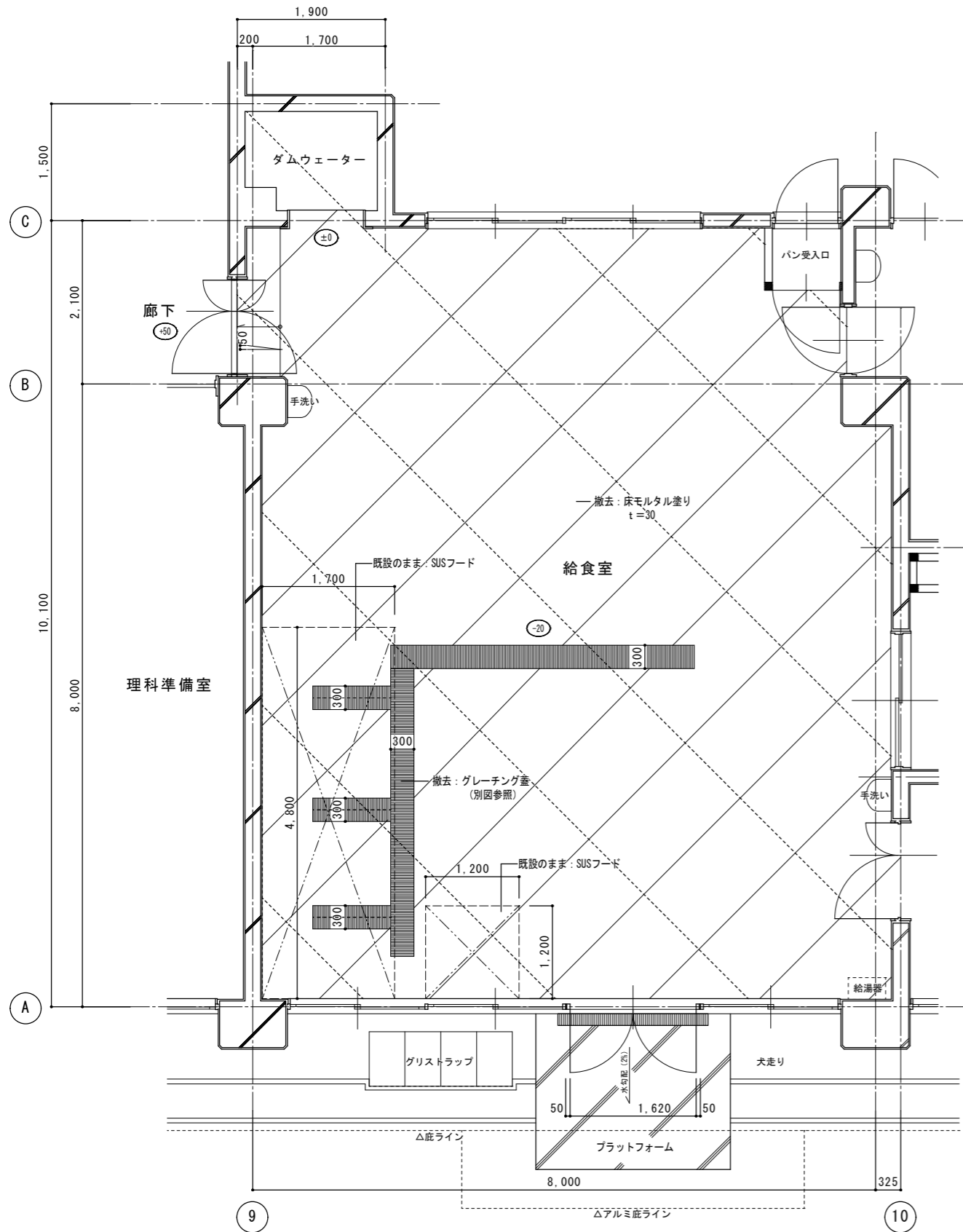


改修前 1階平面図 S=1/200



改修後 1階平面図 S=1/200

特記事項	変更事項	日付	19.11	名称	依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事(令和2年春工事)	図面番号	A-08
		検査		図名	改修前・改修後平面図(依那古小学校)	縮尺	A3版 縮小 A2版 1/200
		担当者		縮尺		検印	
	日付						



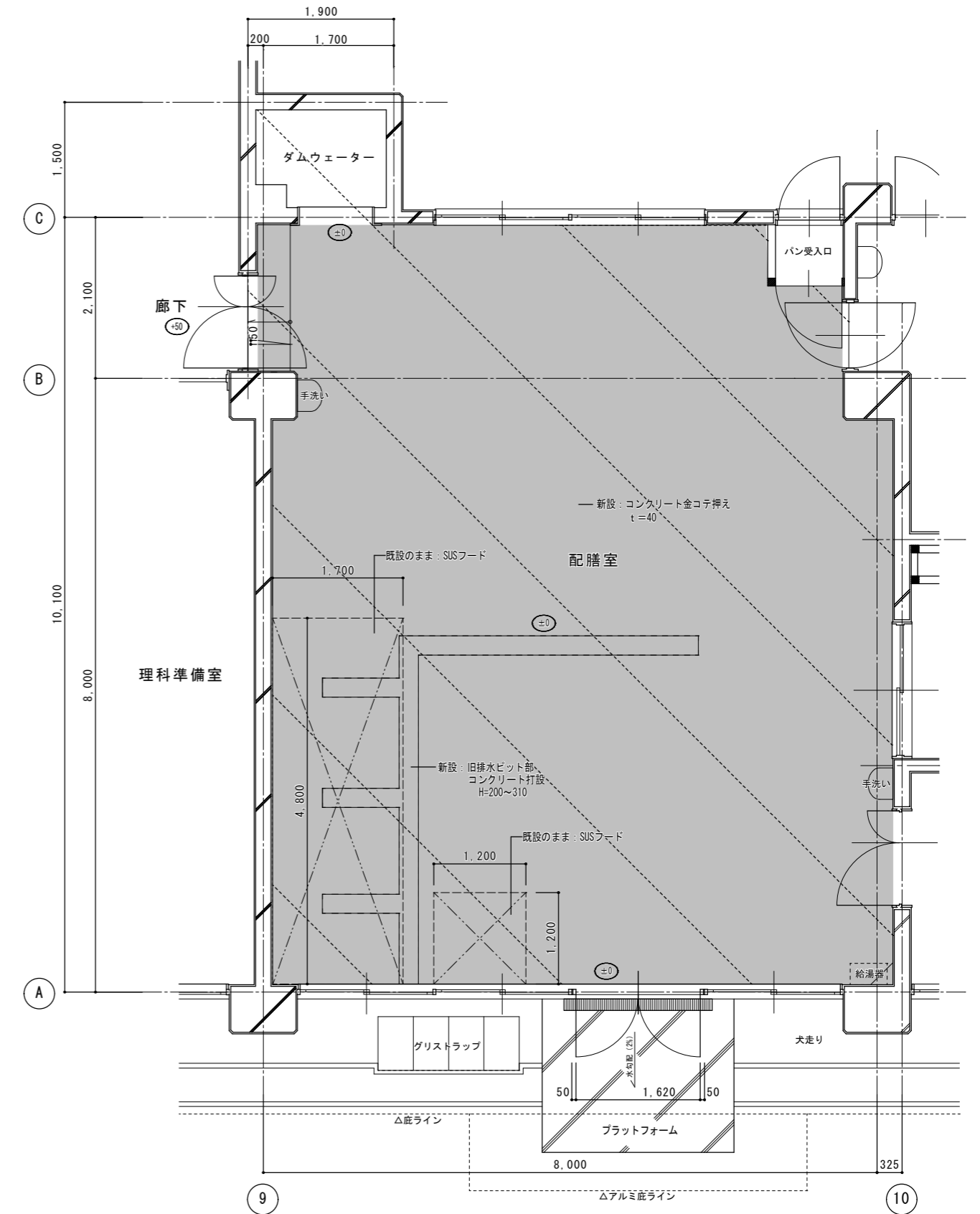
改修前
給食室 平面図 S=1:50

±0 : 配膳室FLからの高さを示す。

床モルタル施工厚さが40mmを超える箇所が発生した場合は
監督員と協議の上、ひび割れ防止措置を講ずること。

凡例	
	屋内改修範囲を示す
	コンクリート金コテ押え範囲を示す
	床 モルタル金コテ押え 撤去範囲を示す

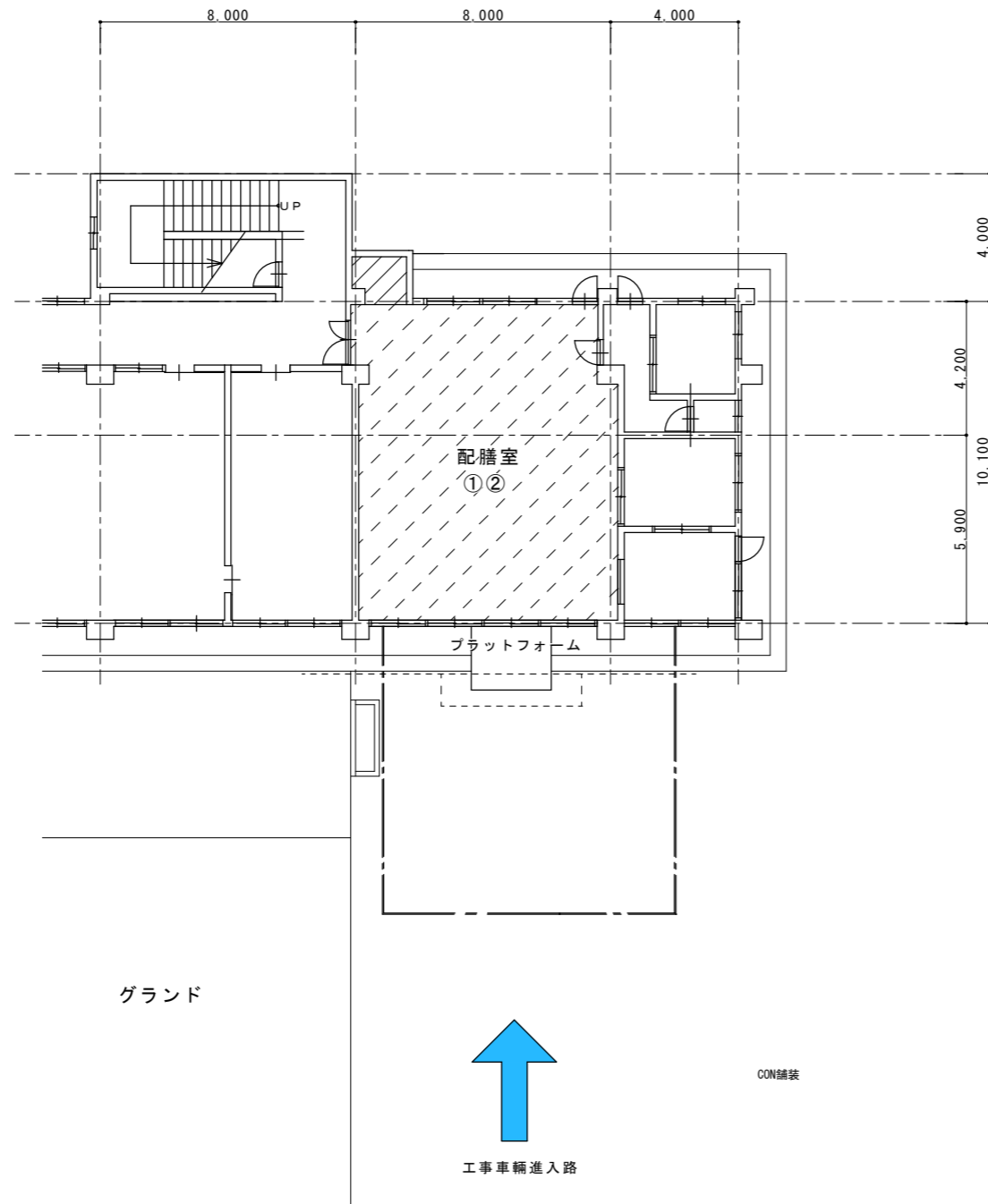
給食室 改修部 改修前仕上表		CH = 3,100
床	モルタル金コテ押え t=30 排水ビット内部: 防水モルタル金コテ押え	



改修後
配膳室 平面図 S=1:50



±0 : 配膳室FLからの高さを示す。
配膳室FLは既設給食室床水上高さを基準として設定し、
監督員の現地立ち合いのもと承認を得ること。

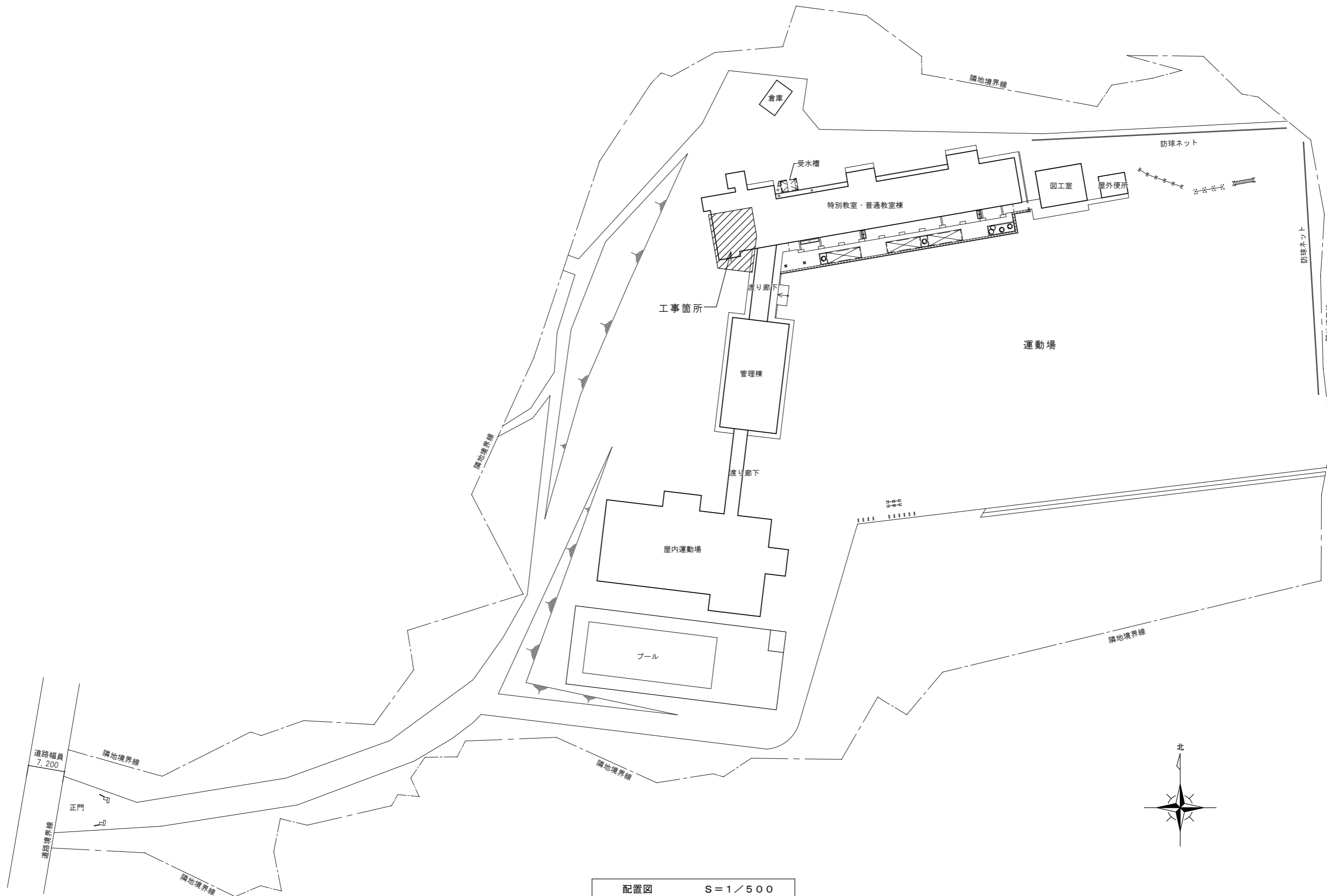
配膳室 改修部 改修後仕上表		CH = 3,100
床	コンクリート金コテ押え t=40 排水ビット部: コンクリート充填	



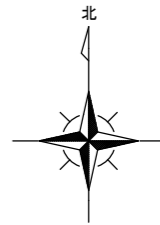
仮設計画図 (2020年春休み) S = 1 / 150

工事内容 凡例	
①	給食室他内部改修
②	空調設備改修
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

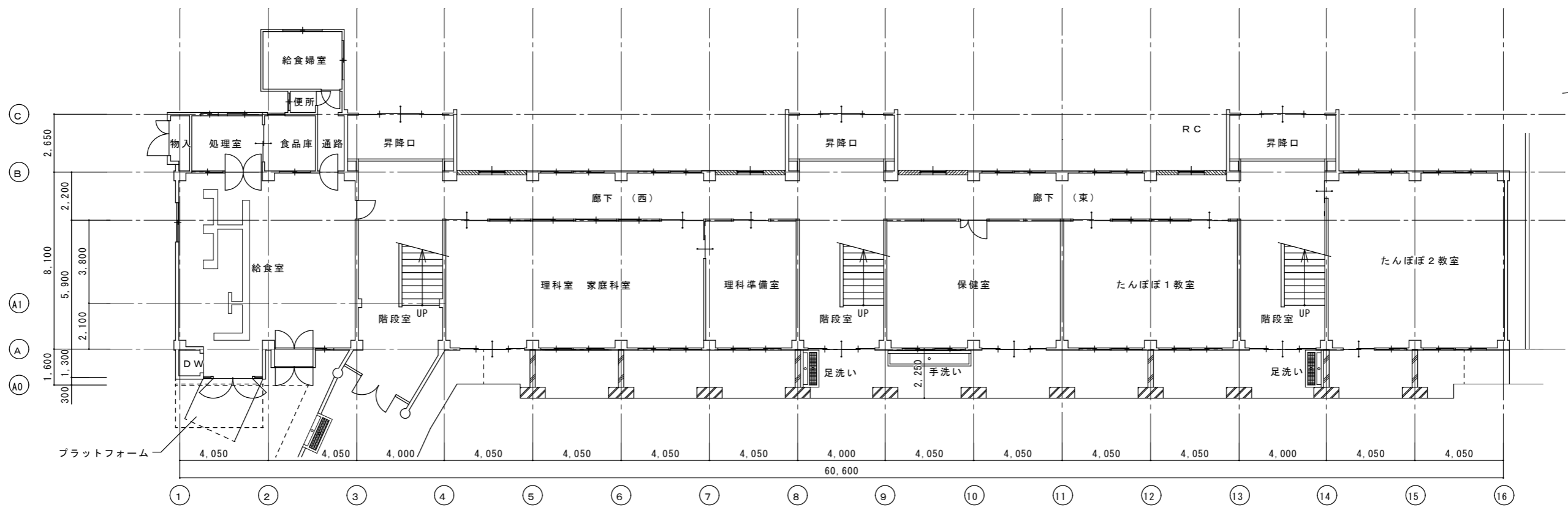
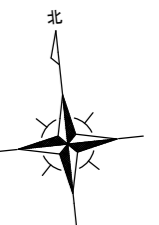
凡例	
	屋内施工範囲を示す
	単管バリケードを示す 27.1m



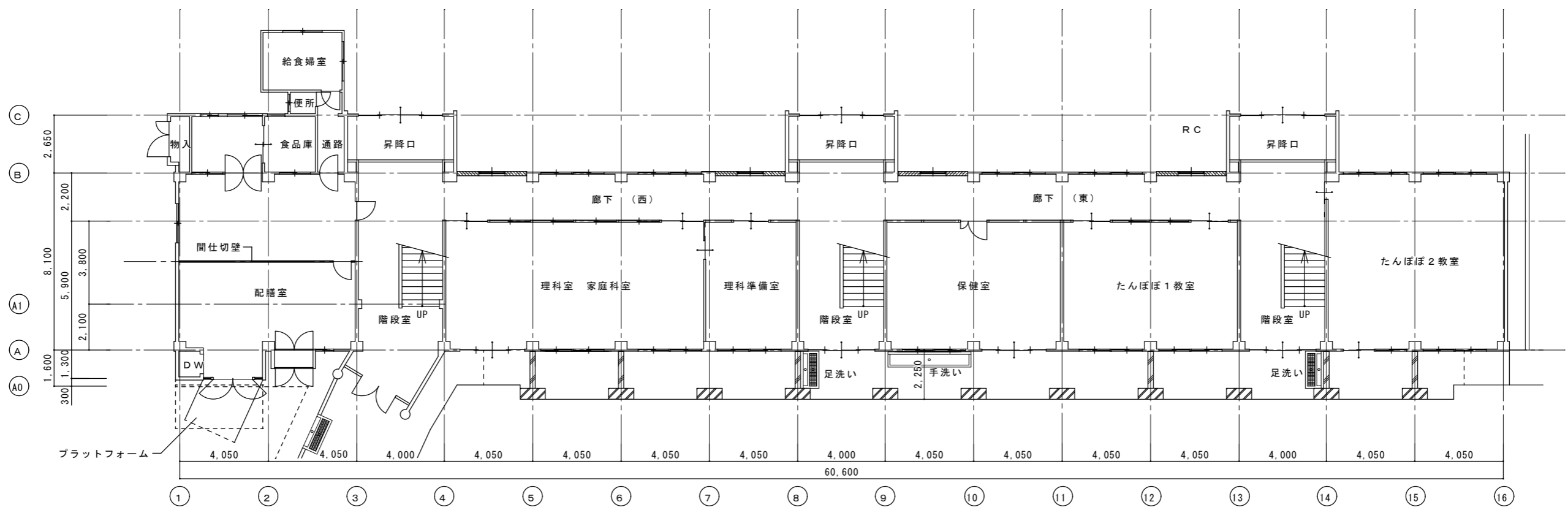
配置図 S=1/500



特記事項	変更事項		日付	' 19. 11	名称	依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事（令和2年春工事）	図面番号	A-12
			棟名		図名	配置図（神戸小学校）	縮尺	A3版 縮小 A2版1/500
			日付		縮尺		縮印	

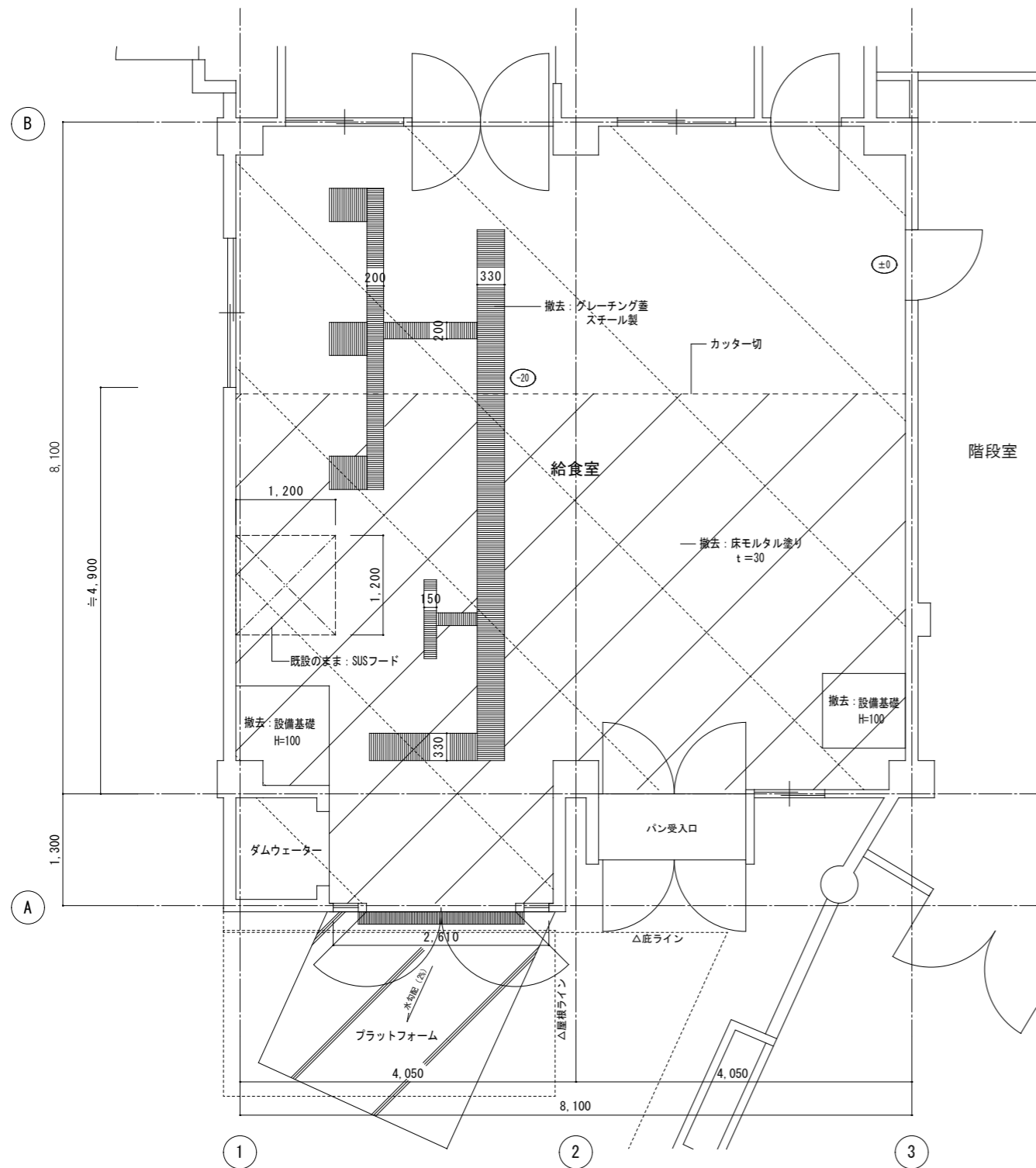


改修前 1階平面図 S=1/150



改修後 1階平面図 S=1/150

特記事項	変更事項		日付	19.11	名称	依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事(令和2年春工事)	図面番号	A-13
			概算		図名	改修前・改修後平面図(神戸小学校)	縮尺	A3版 縮小 A2版1/150
			担当者		検印			
	日付							



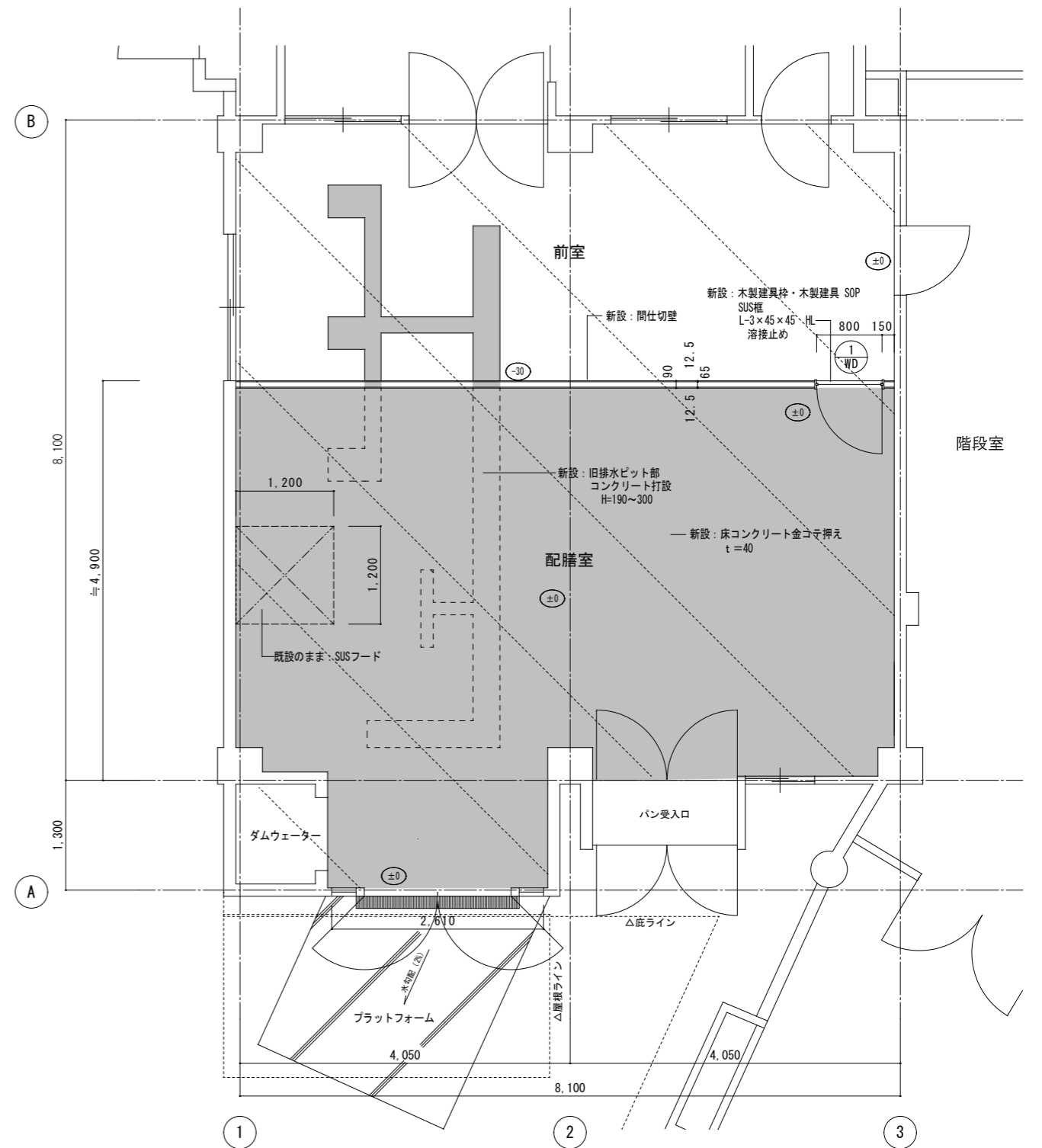
改修前
給食室 平面図 S=1:50

±0 : 給食室FLからの高さを示す。

床モルタル施工厚さが40mmを超える箇所が発生した場合は
監督員と協議の上、ひび割れ防止措置を講じること。

凡例	
	屋内改修範囲を示す
	コンクリート金コテ押え範囲を示す
	床 モルタル金コテ押え 撤去範囲を示す

給食室 改修部	改修前仕上表	CH = 3,080
床	モルタル金コテ押え t=30 排水ビット内部: 防水モルタル金コテ押え	

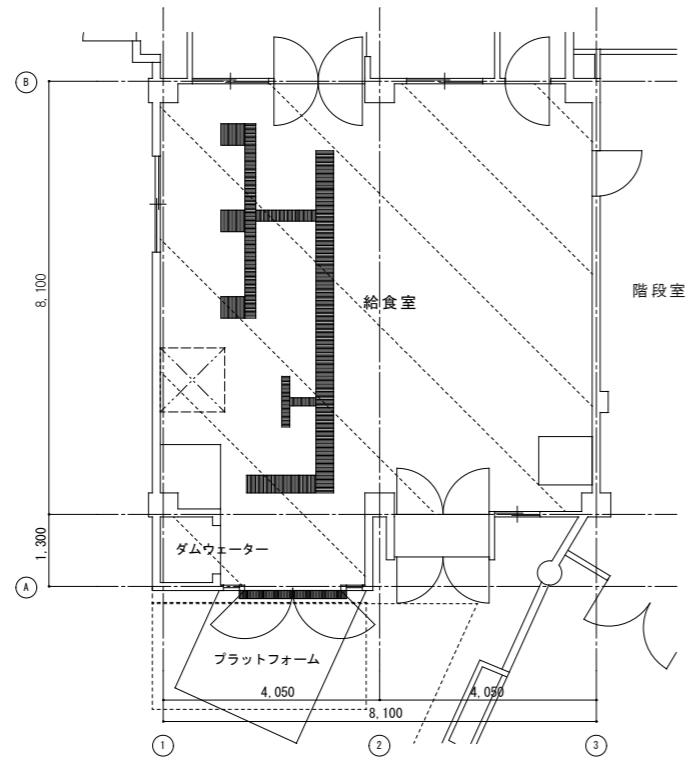


改修後
配膳室 平面図 S=1:50

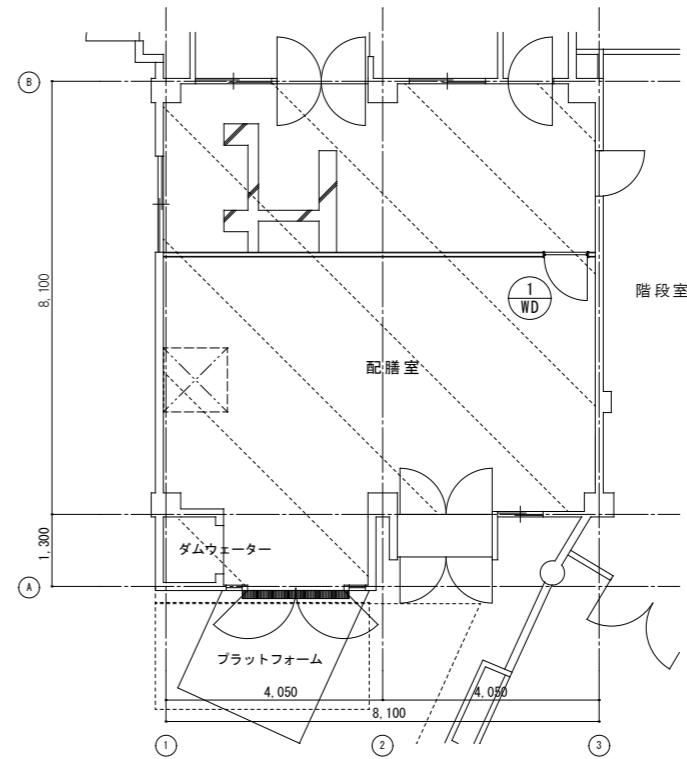
±0 : 配膳室FLからの高さを示す。
配膳室FLは既設給食室床水上高さを基準として設定し、
監督員の現地立ち合いのもと承認を得ること。

前室 改修部	改修内容仕上表	CH = 3,080
床	排水ビット部: コンクリート充填	
間仕切壁	P812.5 EP-G LGS65 #300 下地 既設天井・壁取合い部: 塩ビ見切 (コ型) ビニル巾木	H = 75

配膳室 改修部	改修後仕上表	CH = 3,080
床	コンクリート金コテ押え t=40 排水ビット部: コンクリート充填	
間仕切壁	P812.5 EP-G LGS65 #300 下地 既設天井・壁取合い部: 塩ビ見切 (コ型) ビニル巾木	H = 75

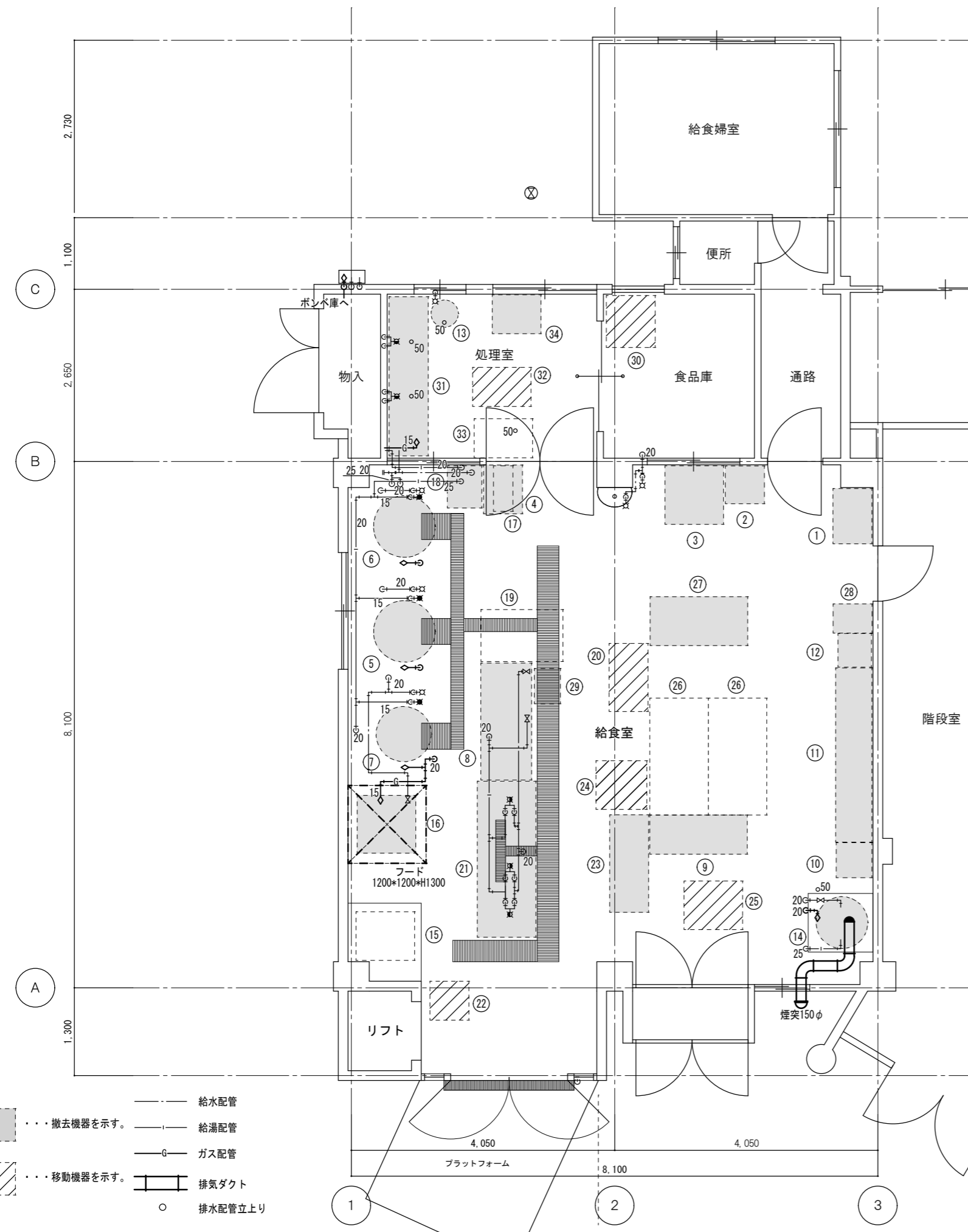


改修前
建具指示図 S=1:100



改修後
建具指示図 S=1:100

記号	数量	場所	1 WD	1	配膳室
			1 WD (新設)		
姿図 (内観図)					
見込					40
型式					片開きフラッシュ戸
材質					しな合板
ガラス					
金物					レバーハンドル・ドアクローザー(ストッパー付)・戸当り・シリンダー錠・取付金物一式
備考					木枠・扉 SOP



厨房機器撤去リスト

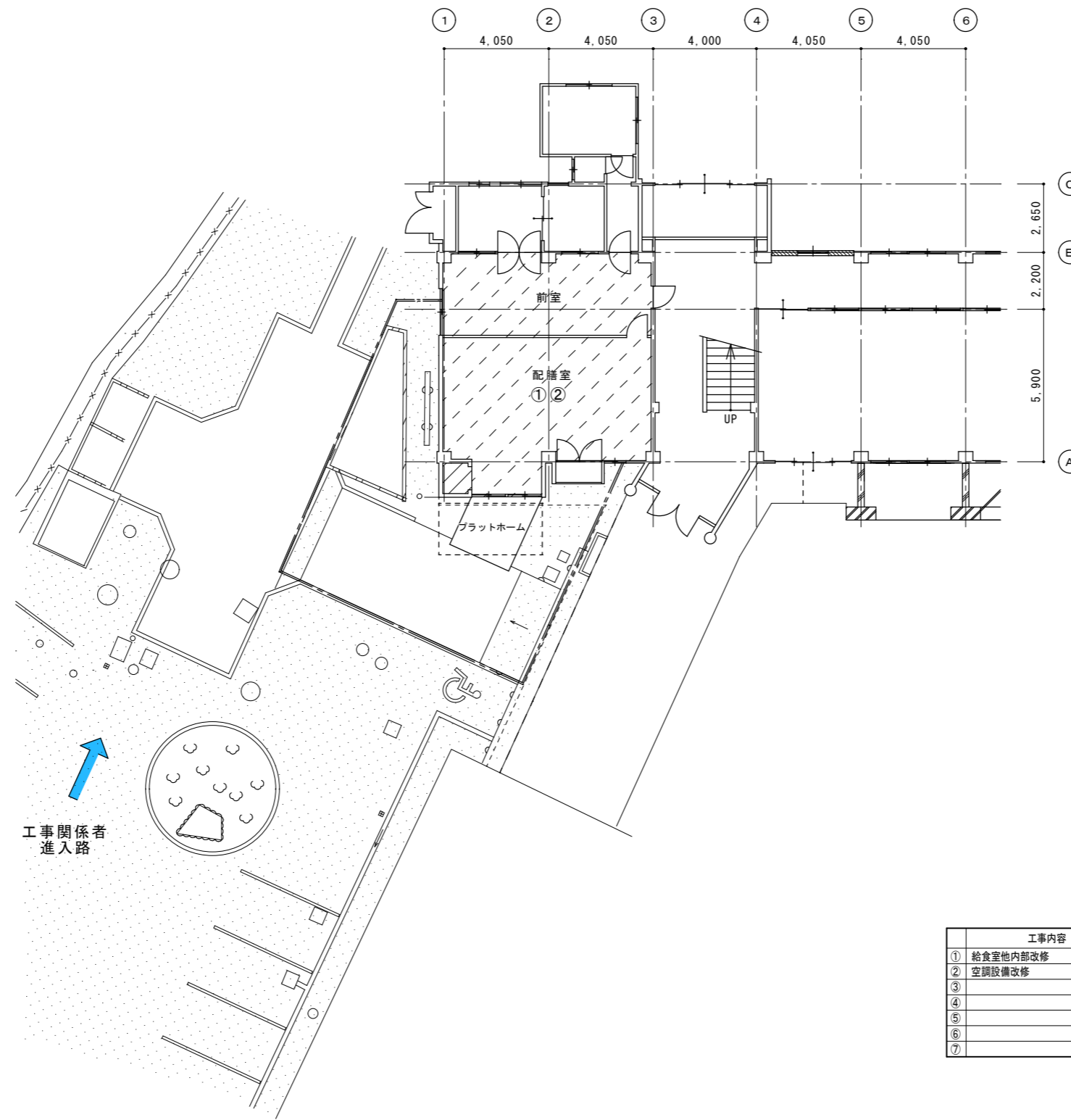
※記載なき備品等の撤去は別途とする。

NO	品名	数	サイズ			特記事項
			W	D	H	
①	包丁まな板殺菌庫	1	850	600	1460	撤去
②	家庭用冷蔵庫	1	600	580	1570	撤去
③	食器消毒保管庫	1	900	900	1920	撤去
④	ガステーブル	1	700	300	130	撤去
⑤	回転釜	1	φ950	-	890	撤去
⑥	回転釜	1	φ950	-	890	撤去
⑦	回転釜	1	φ850	-	850	撤去
⑧	洗浄機	1	1800	780	1130	撤去
⑨	台下冷蔵庫	1	1500	600	800	撤去
⑩	食器消毒保管庫	1	540	550	1900	撤去
⑪	食器消毒保管庫	1	2680	560	1900	撤去
⑫	検食用冷蔵庫	1	520	520	1150	撤去
⑬	球根皮剥機	1	φ420	-	800	撤去
⑭	温水ボイラー	1	φ800	-	2080	撤去(付属機械共)
⑮	冷蔵庫	1	750	900	1950	存置
⑯	スチームコンベクション	1	890	900	1610	撤去
⑰	ガステーブル台	1	750	600	650	撤去
⑱	パイプ架台(キャスト付)	1	650	530	580	撤去
⑲	ワゴン(キャスト付)	1	1260	800	820	存置
⑳	ワゴン(キャスト付)	1	1050	600	910	移動
㉑	三槽シンク	1	2400	900	800	撤去
㉒	作業台(キャスト付)	1	600	600	600	移動
㉓	四段ラック	1	1500	600	1800	撤去
㉔	一槽シンク(キャスト付)	1	780	750	670	移動
㉕	一槽シンク(キャスト付)	1	900	750	780	移動
㉖	調理台	2	1800	900	790	存置
㉗	調理台(下部収納庫)	1	1500	750	650	撤去
㉘	作業台	1	600	450	680	撤去
㉙	パイプ架台(キャスト付)	1	540	400	480	撤去
㉚	冷凍冷蔵庫	1	750	800	1900	移動
㉛	二槽シンク(作業台付)	1	2450	600	800	撤去
㉜	ワゴン(キャスト付)	1	900	600	800	移動
㉝	一槽シンク	1	900	600	800	存置
㉞	棚	1	750	600	650	撤去

※存置機器は工事に支障のない場所に移動し工事完了後復旧すること。

設備配管撤去リスト

給水管	土中 キャップ止	1ヶ所	給湯管	鋼管 15A	16.0 m
給水管	20A	30.0 m	給湯管切断	土間コンクリート面	1.0 式
カラン類	給水	1.0 式	給湯管	壁 キャップ止	1.0 式
はつり補修費	外部アスファルト補修含む	1.0 式	ガス管切断	土中 キャップ止 復旧共	1.0 式
給水管切断	土間コンクリート面	1.0 式	ガス管	壁 キャップ止	1.0 式
給水管	壁 キャップ止	1.0 式	ガス管	20A	15.0 m
保温材	給水	1.0 式	コック・バルブ		1.0 式
給湯管	鋼管 20A	5.0 m	はつり補修費	コンクリート	1.0 式
給湯管	鋼管 20A	10.0 m			



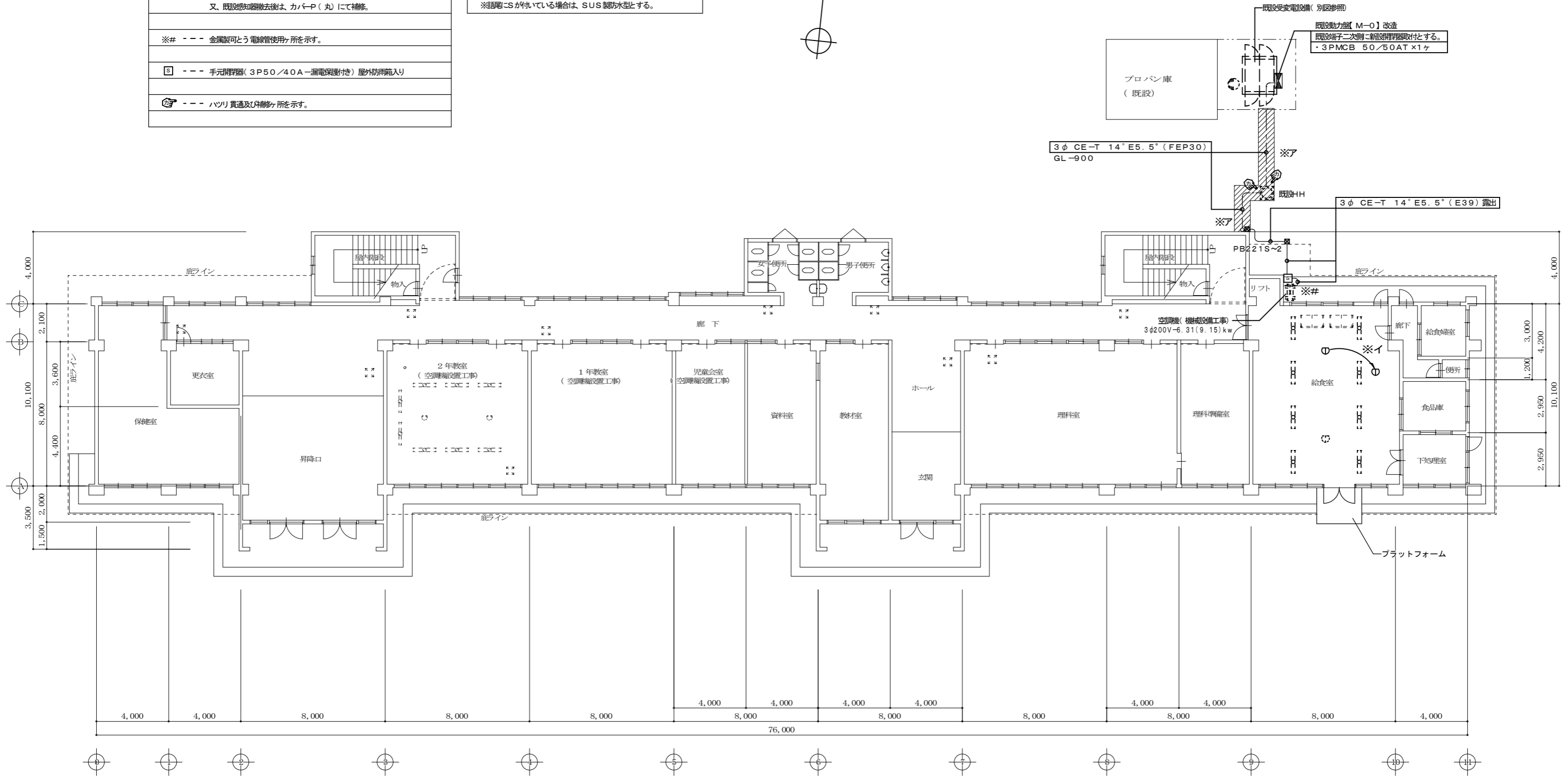
仮設計画図 (2020年春休み) S = 1 / 150

工事内容 凡例	
①	給食室他内部改修
②	空調設備改修
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	

凡例	
	屋内施工範囲を示す
	単管バリケードを示す 35.8m

※ア	--- アスファルトハツリ及び修繕(カッター切り含む)
※イ	--- 既設感知器の移設を行うこと。延長ケーブルは、AE1.2-4Cを使用。 又、既設感知器撤去後は、カバーP(丸)にて補修。
※#	--- 金属製可とう電線管使用ヶ所を示す。
S	--- 手元開閉器(3P50/40A-漏電保護付き)屋外防雨箱入り
②	--- ハツリ貫通及び修繕ヶ所を示す。

記号	ブールボックス寸法
FE221	200×200×100
※器尾にSが付いている場合は、SUS製防水型とする。	

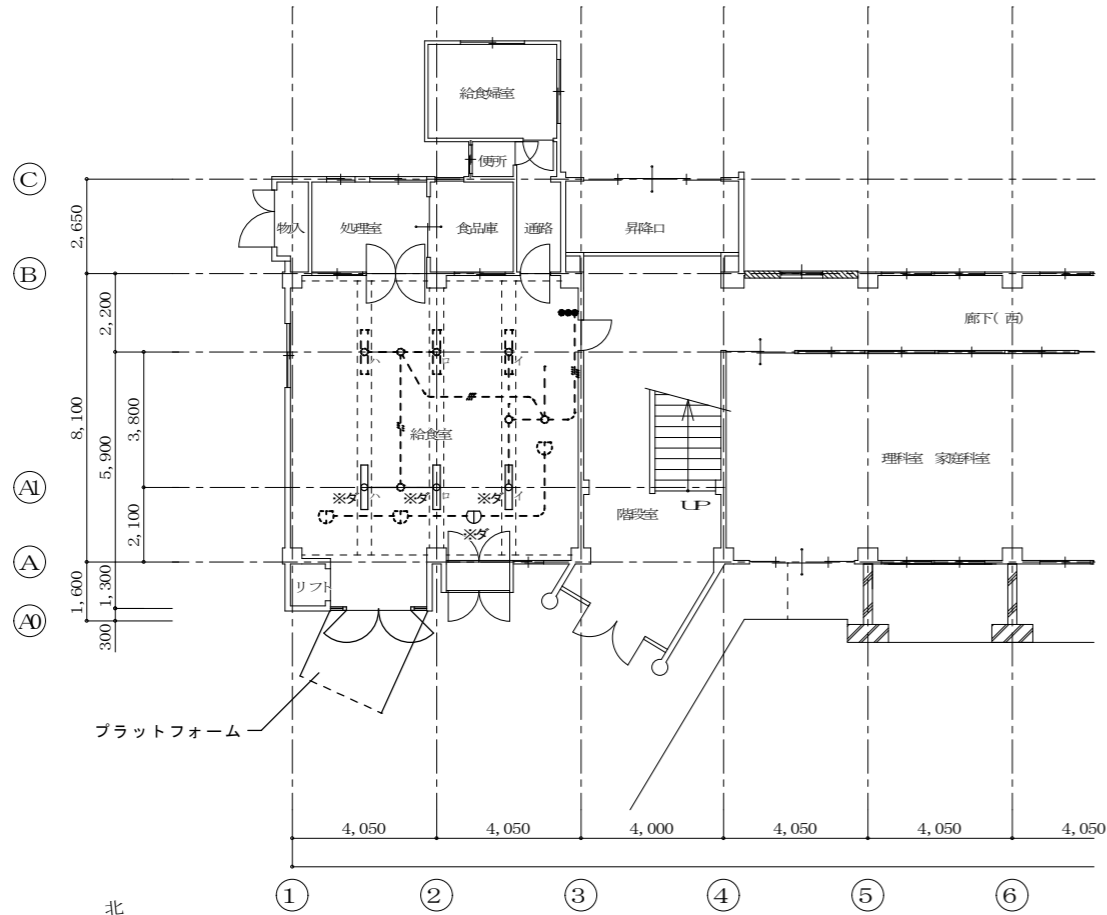


特記事項	変更事項	日付	19.11	名称	依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事(令和2年春工事)	図面番号	E-02
		棟名		図名	電気設備図(依那古小学校)	縮尺	A3版 縮小 A2版 1/150
		担当者		検印			
		日付					

注1. 図中に示す既設器具(太線のみ)の撤去を行うこと。
(点線にて示す器具等は流用とする)

□	照明器具(FL-40W×2)	露出型
● ~ ■	スイッチ(埋込型)	1P15A×1~6
⊖	差動式スポット型感知器	2種
⊕	" "	1種(防水型)
—	1V1.6×2(19)露出	

※ダ --- 既設機器の脱着を行うこと。



1階平面図(現況) 1/150

改修

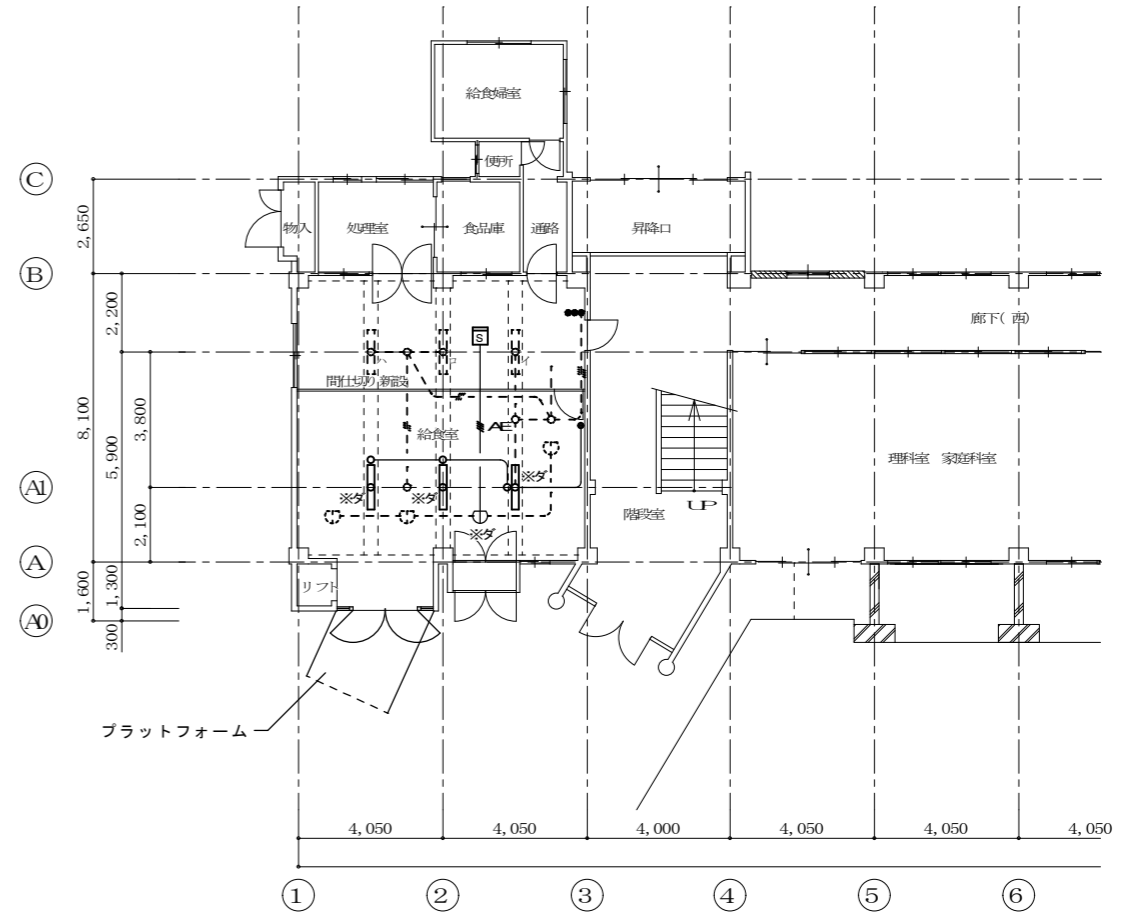
注1. 図中に示す太線の器具、配管、配線の新設を行うこと。

注2. 配線図中補記なき配管配線は下記とする。

—	EEF 2.0-2C	(E19)露出
—	" 2.0-3C(1C=E3)	(E19)露出
—	" 1.6-2C	(E19)露出
—	" 1.6-3C(1C=E3)	(E19)露出
—	" 1.6-3C	(E19)露出
—	AE 1.2-4C	(E19)露出
—	M	露出ケーブル部分の保護(メタルモールジングA型)

□P	カバープレート(新金属)	
□	照明器具(FL-40W×2)	露出型
● ~ ■	スイッチ(埋込型)	1P15A×1~6
⊖	差動式スポット型感知器	2種
⊕	" "	1種(防水型)
⊖	煙式スポット型感知器	2種

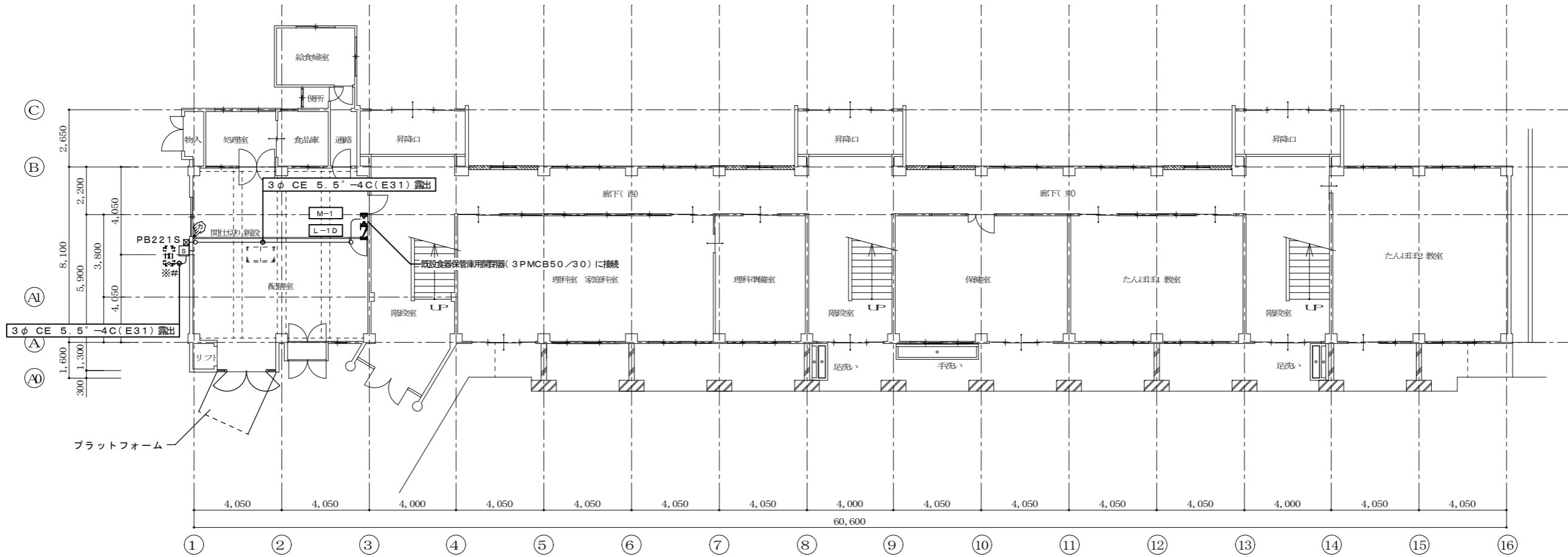
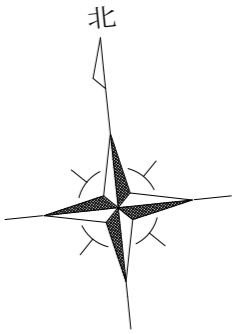
※ダ --- 既設機器の再取付を行うこと。
※イ --- 既設感知器の移設を行うこと。延長ケーブルは、AE1.2-4Cを使用。又、既設感知器撤去後は、カバーP(丸)にて補修。



1階平面図(改修後) 1/150

※#	金属製可とう電線管使用ヶ所を示す。
□	手元開閉器(3P30/30A-漏電保護付き)屋外防雨箱入り
Ⓜ	ハツリ貫通及び補修ヶ所を示す。

記号	プールボックス寸法
FB221	200×200×100
※括弧にSが付いている場合は、SUS製防水型とする。	



1階平面図 1/150

特記事項	変更事項	日付	19.11	名称	依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事(令和2年春工事)	図面番号	E-04
		棟名		図名	動力設備図(神戸小学校)	縮尺	A3版 縮小 A2版 1/150
		担当者					捺印

空調機器表

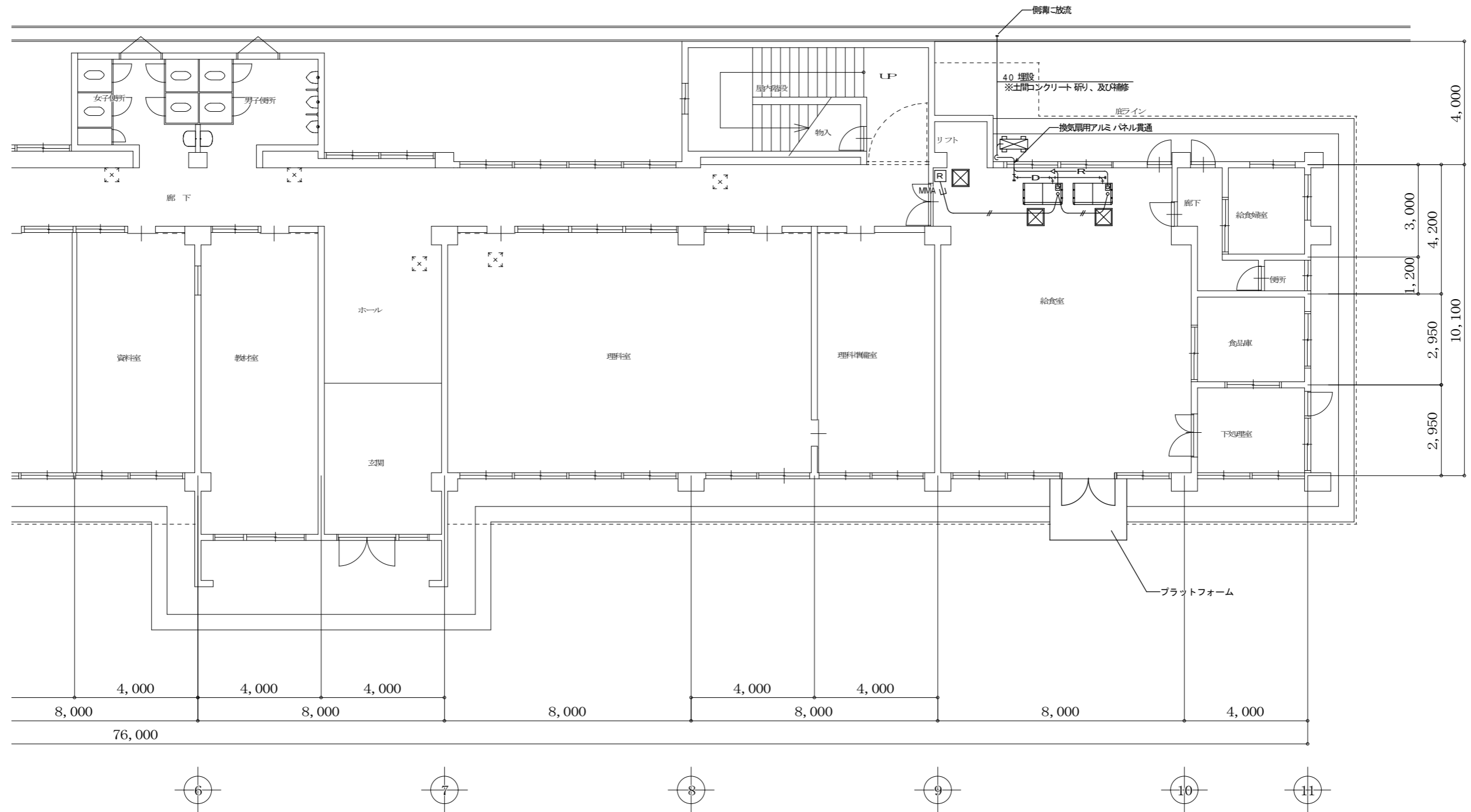
記号	機器名 (参考型番)	形式	機器仕様	電気容量		台数	設置場所	外機配線		備考 (参考寸法・重量)
				電源	消費電力(kw)			20m以下	ブレーカ	
PAC 1	空冷トポ式	形式	天井吊形(ツイン)	3φ		1		14.0	40A	内機=H235*W1586*D690-37kg-2台
	パッケージエアコン	冷房能力	20.0 (4.6~22.4) kw	-200V	冷房	6.31				外機=H1550*W1010*D370-141kg
	ワイヤードリモコンスイッチタイプ	暖房能力	22.4 (4.6~28.0) kw		暖房	5.56				
	(ACSB22437M)	冷媒配管	液側 9.5φ ガス管 15.9φ×2		低温暖房	9.15				※室外機は、防護ネット(前・後・側面)付き
			液側 9.5φ ガス管 25.4φ		定格電流	19.4 A				
		APF	5.8		最大電流	27.0 A				
		付属品	ワイヤードリモコン、他一式							

注記
 *1. 省エネ基準値(グリーン購入法)に適合のこと。
 *2. 室外機-室内機間の2次配線(EEF2.0-3C)は冷媒管と抱き合わせの上本工事とする。
 *3. 電源容量値は参考とする。
 *4. 運転特性・能力はJIS条件による。
 *5. 室外機・転倒防止支持金具取付のこと

*6. 断熱材被覆銅管 原管はJIS H3300による。
 保温厚はガス管20mm、液管10mm(10φ以下は8mm)とする。
 *7. 室外機の基礎 1階は、コンクリート製(タイガーベース)+防振ゴム板敷
 ・2階、3階は、樹脂製ベース+防振ゴム板敷を使用。
 *8. 高調波対策が必要な機器は対策を講ずること。

凡例

—R—	冷媒配管
—D—	ドレン管 40φ露出
—#—	AE1.2-2C(コログシ)
—E—	立ち下げ露出配線の保護(MMA)
[R]	ワイヤードリモコン(メタルモール用BOX共)
[X]	新設天井点検口(450×450)+開口補強共



空調機器表

記号	機器名 (参考型番)	機器仕様	電気容量		台数	設置場所	外機配線		備考 (参考寸法・重量)		
			電源	消費電力(kw)			20m以下	ブレーカー			
PAC 1	空冷ヒートポンプ式	形式	天井吊形	3φ	1		5.5	30A	内機=H235*W1586*D690-37kg		
	パッケージエアコン	冷房能力	10.0 (3.1~11.2) kw	-200V					冷房	3.05	外機=H1050*W1010*D370-76kg
	ワイヤードリコンスイッチタイプ	暖房能力	11.2 (2.4~12.5) kw						暖房	2.75	
	(RCSA11233M)	冷媒配管	液側 9.5φ ガス管 15.9φ						低温暖房	4.17	※室外機は、防護ネット(前・後・側面)付き
		APF	5.7						定格電流	9.47 A	
	附属品	ワイヤードリコン、他一式			最大電流	21.2 A					

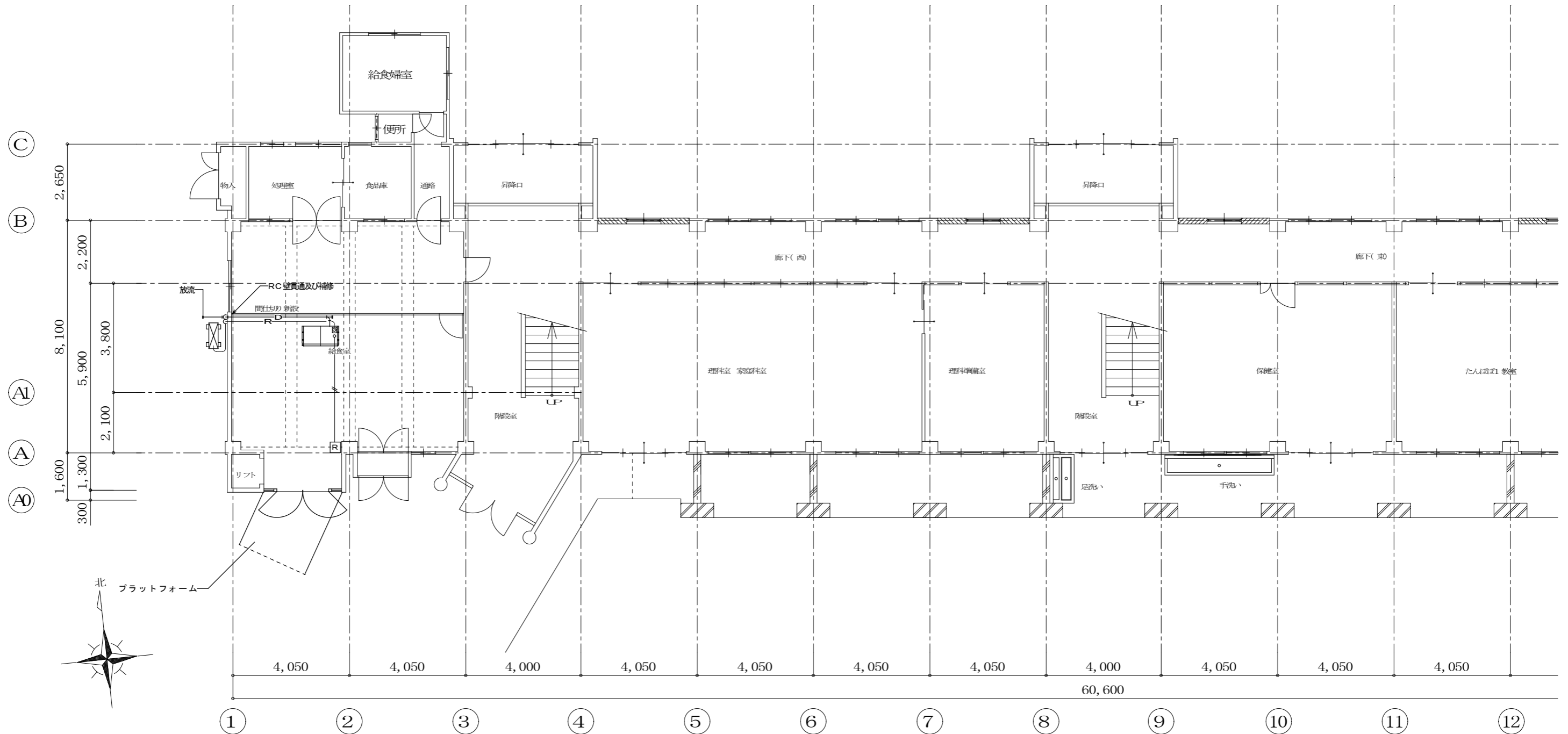
注記

- *1. 省エネ基準値(グリーン購入法)に適合のこと。
- *2. 室外機-室内機間の2次側配線(EEF2.0-3C)は冷媒管と抱き合わせの上本工事とする。
- *3. 電源容量値は参考とする。
- *4. 運転特性、能力はJIS条件による。
- *5. 室外機: 転倒防止支持金具取付のこと

- *6. 断熱材被覆銅管 原管はJIS H3300による。保温厚はガス管20mm、液管10mm(10φ以下は8mm)とする。
- *7. 室外機の基礎: 1階は、コンクリート製(タイガーベース)+防振ゴム板敷

凡例

—R—	冷媒配管
—D—	ドレン管 40φ露出
—#—	AE1.2-2C(19)露出
[R]	ワイヤードリコン(メタルモール用BOX 共)



1階平面図 1/100

特記事項	変更事項	日付	19.11	名称	依那古・神戸小学校 新給食センター配送校給食室改修工事(令和2年春工事)	図面番号	M-03
		縮尺		図名	空調設備図(神戸小学校)	縮尺	A3版 縮小 A2版 1/100
		担当者		図章			